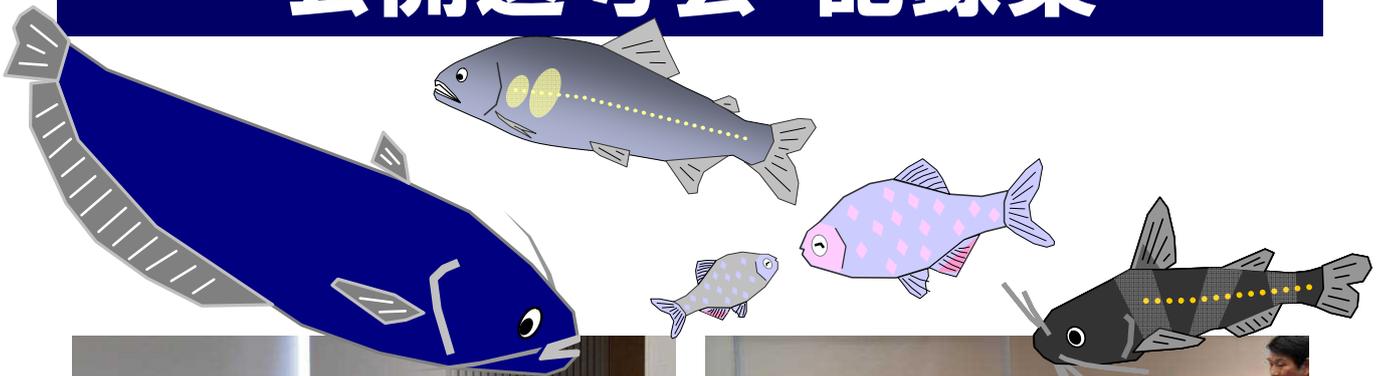


# 第7回 淡海の川づくりフォーラム

平成26年(2014年)2月16日(日)開催

## 公開選考会 記録集

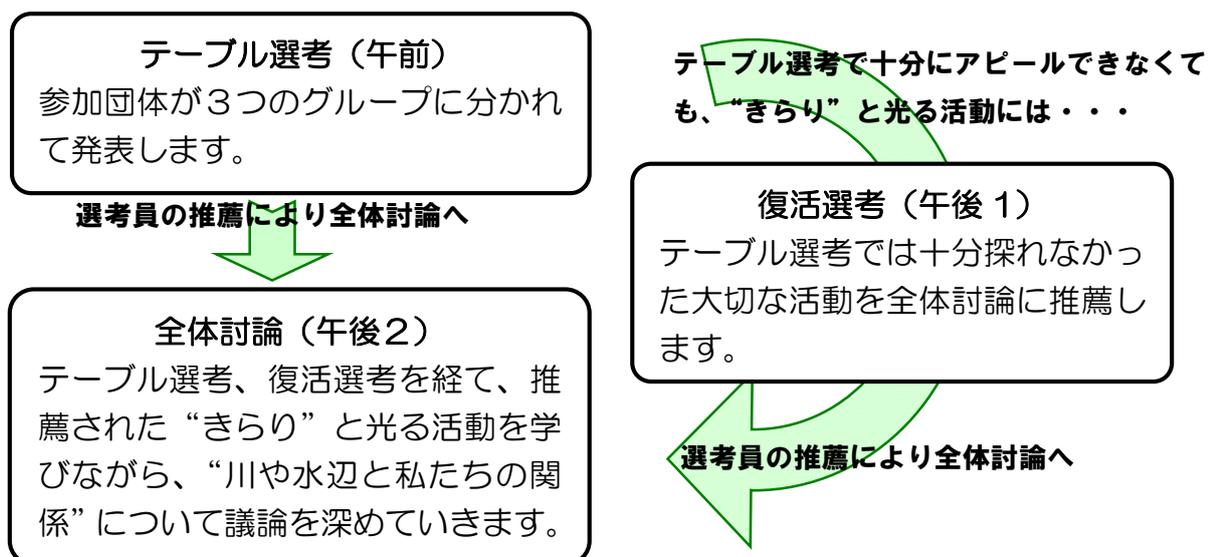


淡海の川づくりフォーラム実行委員会

# 1. 淡海の川づくりフォーラムとは

第7回淡海の川づくりフォーラムでは、“川や水辺と共生する暮らし”、“川や水辺と私たちのいい関係”について、川や水辺にまつわる活動を実践されている皆さんとともに、公開選考方式のワークショップを通じて、それぞれの交流の中で議論を深め、探ります。

- ★ 日時 平成26年(2014年)2月16日(日) 9:30~16:30
- ★ 場所 コラボしが21 3階各会議室
- ★ 内容 テーブル選考、復活選考、全体討論



本事業はマザーレイク21計画に基づくマザーレイクフォーラムとの連携事業です。



## 2. 公開選考会の開催概要

### プログラム

● 2月16日（日）会場：コラボしが21

9：30～10：00 開会、ガイダンス  
大会議室で開会宣言を行い、その後1日の流れを説明します。

10：00～11：30 テーブル選考発表  
選考員が中心となって議論を深め、全体討論に進む“きらり”と光る活動をテーブルごとに2団体、選びます。  
テーブル選考で推薦が得られなかった団体は復活選考に進みます。

11：30～11：45 テーブル選考の結果発表  
各テーブルから推薦された6団体を発表します。

（お昼休憩）

12：35～13：05 復活選考  
時間内で自由に選考員に活動内容をアピールします。  
復活選考から全体討論に進めるのは3団体程度です。

13：05～13：30 スペシャルセッション  
**北浜水辺協議会 事務局長 山根秀宣さん**  
「大阪川床・北浜テラスのとりくみ（経緯とこれから）」

13：30～16：15 全体討論  
発表時間5分で選考員に活動内容をアピールします。  
全団体発表後、選考員・コメンテーターを中心に、明日からの活動の参考になるような、今年いちばん“キラリと光る活動について、参加者全員でさらに議論を深めていきます。

16：15～  
結果発表・表彰  
全体討論の結果を発表します。  
グランプリ・準グランプリの表彰式が行われます。  
山紫水明賞（滋賀県河港・砂防協会表彰）とマザーレイクフォーラム賞は全参加団体の中から選ばれます。

## 選考結果

### グランプリ

#### 高時川源流の森と文化を継承する会

### ★★★「高時川の源流文化は永久に不滅で賞」



あなたは第7回淡海の川づくりフォーラムにおいて「川や水辺と私たちの共生」「川や水辺と私たちのいい関係」をめざす仲間たちのモデルとなる活動を発表されました。その熱意と成果を称えここに賞します。

平成26年2月16日 滋賀県知事 嘉田由紀子

### 準グランプリ

#### 特定非営利活動法人 芹川

### ★★「赤緑論争子どもも大人も楽しみま賞」

あなたは第7回淡海の川づくりフォーラムにおいて「川や水辺と私たちの共生」「川や水辺と私たちのいい関係」をめざす仲間たちに希望を与える活動を発表されました。その熱意と成果を称えここに賞します。

平成26年2月16日 滋賀県知事 嘉田由紀子



### 準グランプリ

#### 渋川生き物絵図作成支援委員会

### ★★「“ふるさと”が育むいのちが見えたで賞」



あなたは第7回淡海の川づくりフォーラムにおいて「川や水辺と私たちの共生」「川や水辺と私たちのいい関係」をめざす仲間たちに希望を与える活動を発表されました。その熱意と成果を称えここに賞します。

平成26年2月16日 滋賀県知事 嘉田由紀子

## 山紫水明賞

## 山内エコクラブ



あなたは第7回淡海の川づくりフォーラムにおいて日々取り組まれている活動が「川と水辺と私たちの共生」「川と水辺と私たちのいい関係」を育むうえでおいに貢献するものと認められましたので賞します

平成 26 年 2 月 16 日

滋賀県河港・砂防協会 会長 山仲 善彰

## マザーレイクフォーラム賞

## 市民自然観察会

あなたは第7回淡海の川づくりフォーラムにおいて日々の活動を通じてマザーレイク21計画の基本理念である「琵琶湖と人との共生」の実現に大いに貢献されたと認められましたので賞します

平成 26 年 2 月 16 日

マザーレイクフォーラム運営委員会  
委員長 松沢 松治



### 3. 応募団体一覧

(敬称略)

	団体・グループ名	代表者
テーブルA		
A-1	白鳥川の景観を良くする会	吉田栄治
A-2	いきものみつけファーム滋賀推進協議会	岡田和男
A-3	渋川生き物絵図作成支援委員会	小宮康
A-4	常世川を美しくする会と常世川再生の会	尾中克行 上田正雄
A-5	せせらぎの郷	堀彰男
テーブルB		
B-1	NPO法人瀬田川リバプレ隊	富岡親憲
B-2	ひろい心の会	速水次郎
B-3	守山市勝部自治会	藤本律男
B-4	長浜市木之本町杉野地域づくり協議会 & 長浜市北部振興局産業振興課	松本長治
B-5	市民自然観察会	吉川正雄
テーブルC		
C-1	琵琶湖博物館 環境学習センター	桑原雅之
C-2	特定非営利活動法人 芹川	礒谷友司
C-3	山内エコクラブ	竜王真紀
C-4	水土里を守る新旭地区	清川輝夫
C-5	高時川源流の森と文化を継承する会	太々野功
C-6	琵琶湖河川レンジャー有志	伊東京子
計	【参加 16 団体】 / 発表 16 団体	

## 選考結果一覧

テーブルA

	川や水辺の名称	団体・グループ名	テーブル選考	復活選考	結果
A-1	白鳥川	白鳥川の景観を良くする会		復活	
A-2	野洲川・日野川	いきものみつけファーム滋賀推進協議会			
A-3	伊佐々川・葉山川	淀川生き物絵図作成支援委員会	推薦		準グランプリ
A-4	常世川	常世川を美しくする会と常世川再生の会			
A-5	野洲市須原	せせらぎの郷	推薦		

テーブルB

	川や水辺の名称	団体・グループ名	テーブル選考	復活選考	結果
B-1	高橋川および瀬田川	NPO法人瀬田川リバブレ隊			
B-2	蛇砂川	ひろい心の会			
B-3	たちばな川を含む9河川とその支流	守山市勝部自治会	推薦		
B-4	杉野川	長浜市木之本町杉野地域づくり協議会&長浜市北部振興局産業振興課		復活	
B-5	西の湖周辺	市民自然観察会	推薦		マザーレイクフォーラム賞

テーブルC

	川や水辺の名称	団体・グループ名	テーブル選考	復活選考	結果
C-1	県内全域	琵琶湖博物館 環境学習センター			
C-2	芹川	特定非営利活動法人 芹川	推薦		準グランプリ
C-3	野洲川	山内エコクラブ		復活	山紫水明賞
C-4	琵琶湖周辺の農地	水土里を守る新旭地区		復活	
C-5	高時川	高時川源流の森と文化を継承する会	推薦		グランプリ
C-6	びわ湖とその周辺河川	琵琶湖河川レンジャー有志			

## 4. 大会ダイジェスト

2月16日(日) 会場：コラボしが

### ● 開 会

淡海の川づくりフォーラムは今回で7回目となります。第4回からは、県民のみなさんとともに企画運営を行うことを目的に、淡海の川づくりフォーラム実行委員会を設置し、実行委員会主催でフォーラムを開催させていただいています。

淡海の川づくりフォーラム実行委員会の北井香実行委員長の開会宣言で、フォーラムが始まりました。ドキドキ、わくわくの一日のはじまりです。

### ● テーブル選考 テーブルA～C

滋賀県内から応募によって集まった16団体が、3グループ(1グループ5～6団体)に分かれてテーブル選考が行われました。

発表時間は1団体あたり5分で、質疑応答とテーブル・コーディネーターの進行により、約1時間30分かけて、それぞれの参加団体から工夫を凝らしたたいへん熱い報告がなされました。発表後の選考員と参加者とのディスカッションを通じ、選考を進めた結果、各グループから2団体ずつ、計6団体が全体討論に推薦されました。

### ● 復活選考

午前中のテーブル選考で惜しくも全体討論への推薦を逃した団体が、もう一度全体討論への出場を目指して復活選考に臨みました。メイン会場に一同が集まり、自作のパネルを用いてアピールを繰り広げる様子は圧巻です！選考委員も選考に熱が入り、発表者と熱心に“いい川、いい地域づくり”について議論されていました。

### ● スペシャル・セッション

全体討論に入る前に、特別ゲストによる活動報告です。

北浜水辺協議会の山根さん、灰原さんにおいていただき、大阪川床・北浜テラスでのとりくみについて、ご紹介いただきました。

### ● 全体討論

午後は、参加者全員がメイン会場にて、全体討論に臨みました。テーブル選考と復活選考を経て、全体討論には9団体が出場しました。さすが、全体討論への推薦を得た団体の報告はどれも内容の濃いものばかり！選考委員のみなさんも選考に頭を悩ませていました。

今回は、大型のフセソを使って、選考委員から各団体の活動の「キーワード」を「発見」してもらいました。

### ● 表彰式

表彰式では、グランプリ・準グランプリに加え、山紫水明賞や「マザーレイクフォーラム賞」も賞されました。

福廣総合コーディネーターからの全体講評の後、コメンテーターである嘉田由紀子知事からの挨拶で、熱い一日が無事に閉会となりました。

## 5. 一日の記録

### 開会あいさつ

淡海の川づくりフォーラム実行委員会 北井 香 委員長

おはようございます皆さん。お忙しい中、たくさんの方にお集まり頂きありがとうございます。

淡海の川づくりフォーラムもこのスタイルで開催は、第2回目からですが、今日は第7回目になりました。毎回、活動の成果を発表にお持ちいただく参加団体の皆様と、たくさんの選考委員会皆様にご協力頂きまして、開催ができております。本当に心からお礼を申し上げます。

また、流域治水政策室の皆様は事務局として本当にこの会を形作ってくださっています。ありがとうございます。

この会は、グランプリだとか準グランプリという話題が目立ちますので皆さんには選考会というよう印象がお強いと思いますが、実は地域の防災力を上げようというのが目的の会です。今年度、流域治水条例が話題になりましたが、この条例を決める前に一番初めの段階が2008年の流域治水検討委員会住民会というのがありました。1年間、委嘱を受けた住民会議の委員が水害に強い地域づくり滋賀県民宣言という提言を上げました。お配りしたフォーラムの資料の中にも実行委員として名前を連ねているメンバーの似顔絵が載っているのを見ていただけるかと思いますが、その住民会議が母体となってこの実行委員会、また、このフォーラムの構想に続いていきます。

住民会議では、自分たちに水害が起こった時に助けしてくれるのは行政ではなくて、自分たちの判断であること。日々、川に接したり、川のこと、地域のことを意識していないといざという時に対処できないので、日々の川の活動や皆様がされている地域での活動が、かなり力になってくるだろうという議論がありました。そして、そういうものを続け、盛り上げるという意味で、自助と共助を支えていくための行政の公助という役割があるやろうという内容で提言をさせていただいています。

このフォーラムはそういう意味で皆さんの活動を盛り上げようとか、ネットワークを広げようとか、仲良くなった団体同士で、たとえば視察し合うとかですね。そんな風に、自分たちの活動がマンネリになっているところを何か取り入れられる視点をいれよう、そういった意図でこのフォーラムを開催しています。

ですので、今日は沢山の方々からご意見を頂け、そうして議論が深まっていくというのが、会自体の目的でもあります。是非皆さんも自由に会の選考の場にも参加して頂いて交流を深めていただければというふうに思っております。



## テーブル選考結果発表

復活選考を前に、テーブル選考の各コーディネーターから、テーブルでの選考ポイントと、復活選考に登場する団体を紹介していただきました。

### テーブルA (テーブル・コーディネーター 小丸和恵さん)

テーブルAのコーディネーターをしました小丸です。

テーブルAは非常に選考が難航しました。最終的に、A-3 渋川生き物絵図作成支援委員会さんとA-5せせらぎの郷さんが午後の部にすすまれましたが、ここでは、選考されなかった3団体を中心に報告します。

A-1 白鳥川の景観を良くする会さん。白鳥川の活動は「おやし連」というおじさんたちのボランティア集団からできていると聞いています。ボランティアでこれだけの活動を継続的に実施されているという点がすばらしい。白鳥川さんは必ず復活選考で選ばれるだろう、と思います。応援していますので、みなさんよろしくお願いします。



A-2 のいきものみっけファーム滋賀推進協議会さん。こちらのほうはまだ新しい取り組みですが、名前からいきものみっけファームということで環境学習をされているのかなというイメージを持ちますが、もちろんいきものみっけ寺子屋の環境学習というものもされているのですが、食のブランド化をしたいということで、金芽米というお米を栽培され、それをブランド化して世界にファンを作っていきたいといった大きな目標を持っておられます。

来年の報告も楽しみだなと思いながら、こちらのほうも応援したい気持ちでいっぱいです。

A-4 は常世川を美しくする会と常世川再生の会。私もこちらのほうに1票入れさせていただいたのですが、本当に地道な活動です。光の当たりにくい都市河川に光を当てられて活動を続けられています。

都市河川というのはなかなか人々の関心が向きにくいドブ川のような川です。私は京都で長い間活動しておりましたので、親近感を持って聞かせていただいたのですが、人の関心がなくなって、川が暗渠になってしまうと、大雨が降ると水浸しになります。

そういった防災の面からもこういった都市河川にスポットを当てられた活動というのは大変大事な活動ではないかなというふうに思っております。

A-3 とA-5 は全体選考で登場されますので、割愛します。みなさんの敗者復活を願って2つ決めさせていただきました。

## テーブルB (テーブル・コーディネーター 佐藤祐一さん)

テーブルBのコーディネーターをしました佐藤です。

テーブルBのほうも非常に選定が難航しまして、投票結果が非常に割れました。最後決戦投票するというところまでいきました。結果としては選ばれたのは、B-3の守山市勝部自治会さんとB-5の市民自然観察会さんの2つです。

説明は本当にさらっと、ということなのであまりしませんけれども、特に市民自然観察会さんは地元の方で非常に精緻にデータを積み重ねられてそれをちゃんとまとめられているというすごさとかですね、勝部自治会さんはこのフォーラムの常連なのでみなさんご存じだと思いますけれども、自治会という場でありながら、みなさんものすごく精力的で数多くの活動をされているというところがやはり魅力的だったのかなと思います。



残念ながらここでは残らなかった復活選考にいかれる3つの団体さんなのですが、まずはB-1の瀬田川リバプレン隊さん。

これも何年も出ておられるのでみなさんご存じ、特にお父さんのすばらしいキャラクターをよく覚えておられる方もいらっしゃると思います。今年のご発表の内容は特にとにかく多様な主体と連携を進められているという

ところが非常に魅力的でした。

小学校とか企業さん、あるいは工業高校と連携して水質調査をしたりとか、ごみ拾いといいながらもそれをいろんな人たちとやっている。活動の輪を広げられていっておられるというのが印象的でそこがPRポイントかなと感じました。

2つ目B-2のひろい心の会さん。ネーミングが非常に面白くて、「ひろい」には意味が2つあって、ごみを「拾う」のひろいとあと心が「広い」と。なぜ心が広いかというと、ごみ拾いをしていると「なぜみんなこんなところにごみを捨てるのか」という気持ちになるのだけれども、そうではなくて、広い心を持たなければならない、ということで「ひろい心の会」となっていると。ネーミングが決め手で点数を入れた人もいたのですけれども。

最初は退職された方6人でやっていたのが今は10人ぐらいでやられている。週に1回ごみ拾いをされていると。ちゃんとリサイクルもして分別しているというような形で非常に回数も頻度多く活動されている。また蛇砂川というところでごみ拾いをされている。川でトラップして琵琶湖に流さないようにしているのだという思いでやられていると、そこも選考員の心を打ったポイントでもありました。

最後3つ目。B-4 杉野の地域づくり協議会さんです。ここは行政と連携しまして、県の補助事業で水力発電をつくっているということです。

今3つ目をつくりつつあるそうなのですけれども、特にその3つ目の水力発電、水車が非常に面白くて、地元の木材を使って学校なんかと連携しながら手作りで「らせん水車」をつくっている。これはまた写真を見せてもらいたいと思いますが、非常に美しい芸術的にもすばらしいのではないかと思います。そのような「らせん水車」をつくっておられまして、そういったものを低コストですることができたら他の地域につながっていくのではないかとそんな思いを持って活動されているということでした。

報告は以上です。ありがとうございました。

### テーブルC (テーブル・コーディネーター 三和伸彦さん)

テーブルCの三和です。



テーブルCも同じようにいろいろな種類の活動がありました。選ばれたのは、NPO法人芹川さん、高時川源流の森と文化を継承する会ということで、芹川さんのほうは河童、高時川さんのほうは今日いろいろな道具を持ってきていただいているということで、それぐらいにしておいて午後の発表をご期待いただきたいと思います。どんな河童が出てくるのでしょうかという感じですが、ここでは選ばれなかったところを順次ご紹介していきます。

最初にC-1 琵琶湖博物館の環境学習センターということで、これは県の博物館の中にありますが、これは行政がつくっておりますけれども、いろいろな情報をいろいろな形で集めてきてそれをメールマガジンとか、あるいは子供エコクラブのとりまとめみたいな活動もされておられます。

実は私がエコライフ推進課でやっていた仕事の中で10年ほど前にこんなものがあったらいいなということでつくっていただいたものですので、今10年経ってこんなふうに関心を持っているということで、非常に感慨深いものがあります。そんな取り組みをされているというところでまた新たな発見、リーダー的な人をもっと増やしていきたいというようなお話がありました。

架け橋になってほしいなと思います。

それから、C-3、毎年常連です、山内エコクラブのみなさん。

今年は未整備の水田を探検して、生き物がたくさんいるなということを見つけて三重県の松坂のほうにも行かれたということで、特にキーワードとして、自分たちが体験したことだから自分の言葉で語っていけるということで、子供たちが自分自身の言葉で身近な地域のことを語れるということがすごく大切だねと。本当にこれは復活選考のほうでしっかり継続は力ということで今回第7回ですね。6年前にはちっちゃかった方も7年続けてですから、今日は狂言のほうを少しやりました。継続は力だなと改めてみんなが感心した。

それからC-4 水土里を守る新旭地区。これは農村まるごと保全の取り組みを地域の方でやっていくと、県の中でもたくさんの取り組みがされている中で、新旭でも一生懸命やっておられて、特に節水ですね、農業用水をどういうふうに使っていくのか。ともすれば水の無駄使いをしてしまいがちであるところを、なかなか「あんたもうちょっと節水せなあかんで」という言いにくいところを新旭地区のみなさんみんなで声掛けをしていただいて、琵琶湖を守るためにはちゃんと管理していかなあかんな、ということをお願いしている、そのきっかけになっているということで、いろんな取り組みを紹介していただきましたけれども、地域でみんなが自分のこととして琵琶湖を守っていく。田んぼを普通にしていくにあたって、でも琵琶湖のことを考えていかなあかんな、ということのきっかけになる取り組みとして、すごく大事な取り組みだなとみんなが感じたところです。

それから最後C-6に琵琶湖河川レンジャーさんですね。公募で参加されているということですがけれども、具体的には大津の大石の自治会のほうに行かれて、地域のみなさんと一緒に自然観察会を、「大石川辺ものがたり」というネーミングをして、開催されたそうです。いろいろ苦労されながら、行政の情報がなかなか地域には届かないということ。その間に入って一生懸命取り組みをされた結果、なんとかできました。こういう取り組みを今後も続けていきたい。

河川レンジャーのみなさんはそれぞれいろんな地域でいろんな活動をされていますけれども、今回の取り組みを一例として挙げていただきましたが、そういう思いを持った人たちが行政と一緒に自分の思いで、しかも自分の知らない地域に入っていく。そんな取り組みを紹介してもらいました。みなさんすばらしい取り組みだったと思います。

ぜひとも復活選考のときにはしっかりとそれぞれの方の話聞いていただければと思います。

以上でございます。ありがとうございました。

## 復活選考結果発表

**事務局**：A-1 白鳥川の景観を良くする会、9票。

A-2 いきものみっけファーム滋賀推進協議会、1票。

A-4 常世川を美しくする会と常世川再生の会、6票。

B-1 NPO法人瀬田川リバプレ隊、3票。

B-2 ひろい心の会、7票。

B-4 長浜市木之本町杉野地域づくり協議会&長浜市北部振興局産業振興課、11票。

C-1 琵琶湖博物館 環境学習センター、1票。

C-3 山内エコクラブ、10票。

C-4 水土里を守る新旭地区、10票。

C-6 琵琶湖河川レンジャー有志、3票。

以上です。

**北井さん**：復活選考、今票数読み上げていただきました。お聞きいただいたとおり10票越えのところ3団体ということで、9票のところも惜しくはありますが、ちょっとラインが見えたかなという気がしております。

みなさんこの10票越えの3団体、B-4 長浜市木之本町杉野地域づくり協議会&長浜市北部振興局産業振興課さん、C-3 山内エコクラブさん、C-4 水土里を守る新旭地区の3つで復活ということではいかがでしょうか。選ばれなかった団体さんに対してエールをとという方おられましたら。いかがでしょうか。

(特になし)

よろしければそれぞれのテーブル・コーディネーターさんコメントをお願いします。

**小丸さん**：A-1 白鳥川の景観を良くする会。絶対いけると思っていたのですが、惜しくも1票足りませんでした。有志がそろって、有志のみなさまで定年後のおじさまたちが、おやし連でしたっけ。続々と登場されて活動されているということで。自治会でもなく企業のそういった活動でもなく、自主的にいろんな方が集まられているこの活動には頭が下がる思いだなということで、うちの部屋では余裕でいけるかなと自信があったのですが、残念でした。

本当に吉田さん。この1票なんとかなりませんか。一言、代表の吉田さんがいらっしゃいますので。

**吉田さん**：すみません吉田です。実は私は選考員をやっておりますので選考員は自分の団体には入れるなということで、本当は架空で・・・1票あるはずでございます。あえて今日は投票しておりません。どうか暖かいご支援よろしくお願いします。

**小丸さん**：ということで委員長いかがでしょうか。

**北井さん**：うーん、全体聞いてから判断しましょう・・・。Bのコーディネーターさ

んからも、選ばれなかったところに一言いかがですか。

**佐藤さん**：Bのコーディネーターをしていた佐藤です。B-4がすごく得票を集められたということで。すごく市役所の方が熱心に説明されていたから、みなさん面白そうだなということで票を入れられたのだと思います。

それ以外のB-1、B-2非常にぼくの好きな団体ではあるのですが、特に推したのはB-2のひろい心の会さんはこれも7票ということで惜しいところなのですが、今年初めて出られた団体なのですね。パワーポイントの使い方がわからなくて、あそこの緑色の紙で発表されて。

「しまったIT力がないからそれが敗因だ」とおっしゃっていたのですけれども、よく見てください、すごい力が入った資料です。あれはパワーポイントでは作れませんよ。あれを使っていろんな人たちに説明されているという力強さが伝わってくるオブジェクトだと思います。

また、やられている方々も最初6人から始められたと。退職された人たちみんな、自分たちで何ができるかということを考えて、まずごみ拾いからしよう

ほんとに身内の場から始められてそれからどんどん活動の場を広げていっておられて。今は毎週のようにごみを拾って、リサイクルもされて、しかも琵琶湖を守ろうという気持ちでやっておられると、初めてきたのだから、ここでみなさんが応援してくださったらもっと大きな活動になるのではないかなと思いますので、私からもメールを送らせていただきます。

**北井さん**：それでは最後Cテーブルお願いします。

**三和さん**：Cのほうはもうこれでいいのではないかと、「空気を読め」みたいな感じですけど、でも環境学習センターと河川レンジャーが落ちている状況ですけども、行政と地域の活動との間をつなぐということで、そういうところが評価されないというのは本当に悔しい思いを持っているのですが。

このぐらいにしといたほうがいいですか。

**さとうさん**：私は琵琶湖河川レンジャー有志さんに1票入れさせていただきました。

午前中の発表を聞かせていただいて、私は出身がアートの関係でして、デザインとかアートって見せ方ってすごく重要なのですね。ポスターを工夫されるだけでイベントのイメージが変わってたくさんの方が来られるようになったというのは他の団体さんにもぜひ参考にさせていただきたいなというポイントでしたので、一言メールを送らせていただきます。

**北井さん**：ありがとうございました。10票がラインでしょうかと言いましたが、9票のところ、10団体の選考もできなくもないということらしいのですが、会場のみなさんにお諮りをしたいと思います。A-1白鳥川の景観を良くする会の9票、復活させるかどうか。もしよろしければ拍手でご承認いただきたいと思います。

(会場拍手)

**北井さん**：みなさん手が動いていますので、9票をラインということにさせていただきます。A-1、B-4、C-3、C-4の4団体が復活といたします。

★復活選考の様子★



## スペシャル・セッション

「大阪川床・北浜テラスのとりくみ（経緯とこれから）」

北浜水辺協議会 事務局長 山根秀宣さん、大阪府 灰原通晴さん

**福廣さん：**朝から紹介頂きました福廣勝介です。これから進行させていただきます。

後程自己紹介させていただきますけれども、大阪勤務をしております。大阪で、すごい会に出会いました。北浜テラスです。

おそらく滋賀の地理とずいぶん趣が違うんですね、都会のど真ん中で。けれど、水への想いは全く一緒だと思いました。

ただ最初は出てもらうのを渋られたというか・・・いや違うんです、「20分しかない」と言ったら、「2時間くれたら行くけれど、20分ではしゃべれない」と言われたんです。けれども、そこを何とか短くしてもらおうということです。

北浜テラスさん、お二人に出てきていただきましょう。



**山根さん：**ご紹介預かりありがとうございます。北浜水辺協議会の事務局長をしております、山根と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

**灰原さん：**私は大阪府の職員をしております。いわゆる河川管理者になります。北浜の水辺の前に土佐堀川という一級河川が流れております。琵琶湖から流れる旧の淀川本線の分派で土佐堀川というのがござい

ます。その関係でやってまいりました。どうぞよろしくお願いいたします。

**山根さん：**今日は本当に素晴らしい団体の方々がたくさんいる中で、お招きいただきまことにありがとうございます。それでは時間もありませんので、大阪川床北浜テラスの取組について駆け足でご紹介をさせていただきますと思います。

ちなみに私の本業は不動産の賃貸業、ビル経営業で、今映っているビルはうちのビルの道路側です。このように大阪の街というのは、道路側が表で、川というのが随分長い間裏という感じできました。エアコンの室外

機置場であったりとかですね。窓もあまりないとかいう状況でありました。

いよいよ北浜テラスについてなんですが、構成しているメンバーは地元の人たち、町会、ビルオーナー、店舗オーナー、NPOという形になります。行政は別に構成メンバーではないのですが、一緒に進めてきたということで書かせていただいております。



一番、最初にやったメンバーがこのような感じです。私、髪の毛があまりなかった頃ですけども、こんなところで写っています。

北浜ゲイトビルでは、OUI（ウィ）さんの店舗が川床を出したいという話をあちこちに言うのだけれども、成り立たないということがありました。

Y's ピア北浜の私は、また別のNPOで水辺の提案をしていたんですけども、いっこうに大阪の水辺が良くならないので、自分が地元になってしまおうということでビルを買った。川沿いのビルを買っちゃったということですね。

忠治郎ビルのてる坊さんは、地元の5代目の方で、もともと料理旅館をやっていたお家の方です。実は、修理工事と称して、足場を組んで川床のようなものを勝手にやっていた。大阪府さんには今聞こえないように言っておかないとあかんですが。そんなこともやっていたくらいの方でございます。



それがこの左の写真になります。これ、換気扇修理のための足場なんですけれども、ちょっと大きいですね。大きな換気扇です。毎年7月25日の天神祭が近づくと、換気扇が壊れることになっております。そんなことをやっているのと、この右側に船が来ます。いろんな船です。これは落語船ですけども、川を行き交います。そんな船にお酒、一升瓶を献酒するというのが地域の習わしでございます。それ用の足場にもなっているということでございます。

私もそうやってビルを買っちゃったもので、ここを何とか、水辺改正、再生するためにはどうしたらいいかと考えました。そういう方向で、もうすでに活動をされているNPOに声をかけて巻き込みました。一緒にやっていくための課題抽出など専門的なところは、NPOに専門家がいっぱいいますので、そっちで考えてもらいます。私は地元の人間になってしまったので、地域のお店をとりあえず酒飲んで酒飲んで酒飲んで、近所の店をつなげていこうというようなことでやっておりました

NPOさんのほうからいろんな課題がでてきます。問題がいっぱいです。

ビル側にもいろんな問題があります。川に出るための出入口がないんですね。

もともと川には出られないようなビルの作りになっていますから。窓も腰窓になっていると。これを解体していく必要があります。川床をつくるということで川床の値段がよく言われるんですけども、実際には川床よりもビルの改造の方がはるかに大変です。

設置工事の様子(2008年9月～)



この右上の写真のようにですね、今回お話になっているところは、2mちょっとのすごく細い空間ではあるんですけども、この河川敷と川の間が活かされないために、すべてのビルは川に背を向けているような状況になっています。それで、ここを最終的には右下のような感じに川床を作りました。

これから今日お配りしているチラシについて少し説明します。一番表にありますのは、現在の北浜テラスの軒数です。川床が9つあって、お店が8つになっています。始めた時はたった3軒でした。そしてこの次のページにありますのは、最初の社会実験 2008年10月、1か月だけ行った「社会実験」のときのチラシです

そして、今見ていただいている写真も、2008年の1か月だけの社会実験のためにこれだけやったというものです。お手元の資料の次のページは、1か月の社会実験を行った後の感想が載っています。最後のページは今日お話しする北浜テラスの経緯について書いてあります。



もう一度スライドの方に戻ります。「できそー」ということでみんな喜んでおります。

一か月だけの「社会実験」なのですが、終わった後、地域にフィードバックしました。実際にこれを行う前にも、地域の方全員にお声掛けをしています。私たちもすでにいろんな街づくりやっていて、結局一番困るのが地元の人です。「俺聞いてへんぞ」とか、足を引っ張って、結果的に梯子を外されるというのがよくあるので。やる前からずっとローラー作戦で声を掛けて、やった後もまたその内容を参加しなかった方にご報告するという形でしてきました。

それで、2008年から現在2014年までに、先ほどのように川床が増えてきました。もう一つここでお話ししたいことがあります。2010年から水辺整備を検討する会というのを始めました。こちらは、さきほどの地域の方にフィードバックするというのと同時に新しく一緒に地域の水辺の形を考えていきたいということでやっています。

これは私たちの北浜テラスが契機となりまして、大阪府さんに水辺整備をしようというアクションを起こしていただきました。北浜水辺協議会にお話を持ってきていただいたのですが、私たち北浜水辺協議会がすべての水辺をもっているわけではありませんので、地域のみなさんの意見とあわせながらやる必要があります。なので、みなさんにローラー作戦でまた声を掛けてやっていきます。

最初に遊歩道の計画があると、その計画ができましたと言われました。大阪府さんのイメージでは遊歩道ありきだったんですけども、私たち北浜水辺協議会は横移動よりも水陸方向を重視したいという想いがありました。みなさんはどう思いますか、ということでしたが、同じような想いでした。奇跡的に全員そういう風に思っていたいていました。それをもとに2010年の次は2012年です

1年間飛んでいるんですが、それは方向を見直して、大阪府さんの方で考え直している間になります。遊歩道の高さを低くすることは、そこにつなぐスロープの長さも長くなったりと、いろいろ課題が生じてきます。その辺の問題も解決いただいて、2012年、そっちの方向でやれそうということで順次話をしていきます。

大阪にも川床を!! の想いを果たせた  
「水都大阪2009」での試みが継承され、  
ついに常設化が実現!  
1年を通じて川床が楽しめるようになりました。  
水の都の景観・中之島と、行き来する観光船。  
自然の風が通り抜ける川床を体感してください。

ライオン橋のたもとに新床登場・4店舗に増えました!!



- 2008.10及び2009.5-7 社会実験
- 2009.7.29 北浜水辺協議会設立
- 2009.11~ 公共の機関のたもとに 包括的占有
- 2010.3.18 川床開き安全祈願祭
- 2010.9.22 アコースティックナイト開催
- 2010.9.25 難波橋洗い(中央区)協力
- 2010.10.7 水辺整備を検討する会

私たち北浜テラスも最初「社会実験」という形でやったんですが、規制が多い川沿いの場所を変えていくための一つのやり方かなと思っています。ずっと何も言わずにやってしまうと違法ということなんですけれども、ちゃんと話し合っ、「1 か月だけ、

1 か月だけ。ちょっとだけ」というとなんとなく許してもらえるとのかですね、そんな形で社会実験をいつも先にやるんですね。

次は、私たちはここに船をつけたい。北浜という地名は、大阪の中心部船場の北側の浜ということで、水とのかかわりが元々あった場所です。ですので、船で北浜の店にやってきていた。そういう歴史を再生したいと思ったので、船がつけられるような岸を——現在は当然ダメなんですけれども、「1 か月だけ」と言って2011年に1回目の社会実験を行いました。

それをみなさんにご報告しました。それとともに大阪府さんは普通の浮棧橋の船着場は、メンテナンスが大変なので、そういうものは今後は作れないとの見解でした。今までもいっぱい大阪府さんが作ってきているので、それはもう計画上是終わっている。だからダメですということです。なので、岸部が船をつけられるような形になるのであれば、それは可能性がある。雁木式という階段をご存知かと思いますが、その階段を川に向かって階段を作るのではなくて、川の流水方向に向かって階段を作ります。いろんな高さでどこかで水位が合うのかなということです。

そういう社会実験を2012年に「ちょっとだけ」ということで、またやらせていただきました。それをまたみなさんにご報告して、そうこうしている間に大阪府さんもそのような気になっていただいたのです。まだ未計画、確実にはまだなっていないのでお示しできませんが、そのような方向の絵を描いていただいております。これではその図面の右の方にちゃんとした船着場というか船寄場があってですね、上の中之島のちょっと途切れている部分の下くらいにもう一箇所、そのミニ版があって、さらにその左の方には、なにも飛び出したりはしないんですけども船は着けられそうな場所を作ろうかなという話を、今、しているところです。

大阪の川は汚いというイメージがまだまだあるかもしれませんが、今日お集まりのみなさまに、琵琶湖をきれいにさせていただいておりますおかげで、大阪の川もカニが産卵して、鵜がウナギを捕るような姿を見ることができるようになりました。

人が川と向き合って生活する都市計画とは、どんな姿なのでしょう。世界の中心で愛をさけぶというドラマがありましたが、それをもじって、大阪の中心に世界に誇る水辺景観を作るという言葉を合言葉に、地域と大阪府さんとで共鳴しながらやってまいりました。さて、それはうまくいくのでしょうか。どうぞ今後ともよろしくをお願いします。

**山根さん**：本当は船着場のアップ図をいれるようなことになっていればいいですけどね。ぜひ会場のみなさんでお聞きしたいことがあれば。少し時間がありますので。

**嘉田知事**：すみません。せっかく大阪府、商都大阪の灰原さんに河川環境関係で来ていただいているので、府としてどういう抵抗があり、どう変えてきたのかというこ

とを、ぜひ共有をしていただきたいと思います。実は、滋賀県も水辺の利用をいろいろやりたいのですが、「河川法上」の制限があります。河川法の越え方を少し共有させていただければとおもいます。

**灰原さん**：今のお話についてお答えします。右上の写真で、ここにビルがあって、こちら側に高い防潮堤があって、その間に足場を組んでいるところあたりがいわゆる河川敷で、この左側の防潮堤の向こう側に水面が見えますのが川です。

河川区域というのは、みなさんご存知のように、河川敷地はみんなのもの、だから特定の人には使わせないということです。結局はみんなのものなので、誰にも使わせませんということですずっとやっていました。

けれども、だいたいこの土地は誰が使えるんですか、誰が使うんですか、そういうことをわかっているのは、やはり河川管理者なんですけど、判断できないところは苦しいところです。そもそもこういうことをやろうという人が出てきたことが奇跡なんですね。そこで、次はどうすればいいのか。こういうことを特定の人に許可をしたらだれが文句を言うのか、困るのかということ、便利のよい言葉で、さっきずっと山根さんが言っておられた「社会実験」でやってみましょうということです。

ON/OFF で行ってしまうとなかなか後戻りできないのが行政ですけども。まあやってみてえらいことになったらやめて、これで洪水がおきるのならもう最初からできないですが、洪水が起きるわけではなく、何か不公平不平不満を頂きながらやっていく。それが社会実験だということをして、信じて、信じて 3 年くらいたちました。

特に大きな問題もなくできていますので、最初やってみてよかったです。というのは、河川法は平成 24 年 4 月から、特別に区域を指定していると、河川区域での営業行為ができるように河川法準則の改正が進んでいますので、社会実験でなくても、いろんな手続きができます。（道路から救急車の音・・・）これ以上しゃべるなということですかね、すみません。

**福廣さん**：お二人は、最後までいていただけますね？ということなので、ここでスペシャル・セッションの方は時間切れということです。「**ちょっとだけの社会実験**」とか「**人が川と向き合う**」とか「**できてしもた**」とかそんなキーワードがありました。とりあえずは北浜テラスのお二人、ありがとうございました。

## 全体討論

総合コーディネーター：福廣勝介さん

コメンテーター：嘉田由紀子さん、片寄俊秀さん

全体選考員：菊池玲奈さん、さとうひさ彥さん、朴恵淑さん、山道省三さん

全体討論における発表団体：10団体

### テーブルA

【復活】A-1 白鳥川の景観を良くする会

〈推薦〉A-3 渋川生き物絵図作成支援委員会

〈推薦〉A-5 せせらぎの郷

### テーブルB

〈推薦〉B-3 守山市勝部自治会

【復活】B-4 長浜市木之本町杉野地域づくり協議会&長浜市北部振興局  
産業振興課

〈推薦〉B-5 市民自然観察会

### テーブルC

〈推薦〉C-2 特定非営利活動法人芹川

【復活】C-3 山内エコクラブ

【復活】C-4 水土里を守る新旭地区

〈推薦〉C-5 高時川源流の森と文化を継承する会

(注：〈推薦〉はテーブル選考で推薦された団体、【復活】は復活選考で推薦された団体)

**福廣さん**：これから全体選考に入りますが、9団体が10団体にもなりまして、急いで続いてやらしていただきたいと思います。

のちほど自己紹介と申しましたけれども、改めまして福廣勝介といいます。三重



県名張市から来ました伊賀者です。「山」・「川」が伊賀人の合言葉です。滋賀の甲賀とは電車で行くと、滋賀からは遠いんですが、滋賀甲賀とは、山越え陸続きです。伊賀者と甲賀者はものすごく仲が悪かったようなんですが、2月19日に、「忍者の教科書」という本が出ます。伊賀忍者研究会と甲賀研究会が一緒に出します。初めてのことで、仲良しです。

このフォーラムの司会は、もうお前見慣れたといわれるくらい4年目に入っております。もうぼちぼちというふうに思っております。僕の自己紹介はこんなところです。

この選考会は、午前中もそうですが選ぶことの大変さ、あるいは難しさ残酷さみたいなのところがあるわけですがけれども、去年、はたと気が付きました。「これは見本市や！」というふうに思っております。

見本市なので、これはこれが好きやという好き嫌いがありますねえ。選考委員のみなさんも好き嫌いを言うてもろて、ということでええんやないかと思えます。

それで選考委員のみなさん、前の座席のところに出ていただきましょうか。選考委員の皆さんの顔がわかるように、選考委員のみなさんは出ていただきましょうか。それで選考委員のみなさんの自己紹介をいただいて、その後10団体のプロジェクトの発表をお願いします。

自己紹介をちょっといただいてですね、さっき言いましたように好き嫌いでやってもらったらよいのです。「それ、お前、考え方具合悪いわ〜」ということは、また来年の選考委員の審査にもこの場をしたいと思いますので、あまりいい加減なことを言う、今日だけは許していただいて、来年はあかんなという、それはもちろんこれを含めてですということです。

先生方を前に発してしまいましたけれども、それではどうしましょうか。山道さんから自己紹介をいただけますか。

**山道さん：**イラストとは顔が似ていない山道です。山道といいながら川のことしかやっていないという私です。

今日来ていらっしゃる九州の田中秀子さんのところの広松伝（ひろまつ つたえ）さんから、「山は川という字を書いて、川をこう横に止める、つまり水源だ！」と言われました。救われたと思ったことがありますけれども、実は私、全国の川づくりワークショップでは、選考委員をしたことがないんですね。苦しみがありません。苦しみがあまりわかっていないのですが、本当に大変だなあと思っております。

福廣さんから好き嫌いという話もありましたけれども、私が「あっ、これは！」と思うものがあれば、是非推薦をしたい、選びたいと思っております。よろしくおねがいします。

**福廣さん：**僕から一言付け加えます。北井実行委員長は、「滋賀の会は、東京のパクリをしている。」と言います。

東京に「いい川・いい川づくりワークショップ」という同じような会があります。始まってもう15年になります。その会をスタートさせた、選考理由、講評の過程をみなさんにみてもらおうというスタイルの会ですが、山道さんはこの会を立ち上げた陰の立役者です。

次、朴さんよろしくお願いします。



**朴さん**：みなさまこんにちは。朴惠淑（ぱく けいしゅく）と申します。名前のとおり、韓国生まれ育ちで珍しく日本が好きです。私のような人がたくさん出てきたらいいなと思うんですけども。まあ、仲よくなるのが一番かなあと今日も感じました。なかなか午年であるということもあって、結構暴れるんですけども、年をとったのか最近かなり甘く丸～くなりました。こういうような傾向をずっと持っていきたいなあと思っております。



今年でこのフォーラムの選考委員は3年目になりますけれども、総合コーディネーターである福廣さん、片寄先生、嘉田知事が嘉田先生の時、山道さんと一緒に日本のいい川いい川づくりのことを、滋賀県だけではなく実は韓国もパクっているんですね、今10年目になりました。そういう形もあり仲よくしましょうということで今日やってきました。どうぞよろしくお願いいたします。

**福廣さん**：言われたように「韓国ワークショップ」を韓国に伝染さしてもらいました。僕と朴さんとは三重仲間で親しくさせてもらっています。

では次、さとうさんお願いします。

**さとうさん**：皆さんこんにちは。京都から来ましたさとうひさる と申します。

京都でNPOの「アート・プランまぜまぜ」という団体をもう11年やっています、アートと市民をつなげるという活動をしています。11、12年活動している時に、桂川の環境を考える団体さんと一緒に日吉ダムと一緒にアートイベントを始めたということから、こういった川の活動の方にも時々顔を出さしてもらうようになりました。

今日も最終選考でいろんなお話を聞かせてもらえるんじゃないかと楽しみにしております。よろしくお願いいたします。



**福廣さん**：さとうさん自己紹介時の発言にもありました、環境というとすぐ自然環境みたいとこにいけますけど、大きな大事な人間の活動の部分のアートの方が、こういうところに出てきていただくのは非常にめずらしい領域の人だと思っています。期待しています。

それでは、次、菊池さんお願いします。

**菊池さん：**みなさんこんにちは、菊池玲奈と申します。

昨年までテーブル・コーディネーターとしてご一緒した方いらっしゃると思うんですけども、正直、全体選考どうしようと未だにドキドキしています。

私はいつも自己紹介が一番困るんですけども、もともと環境や生物の専門では全くなく、総合商社、むしろ環境と全く真逆の仕事をしていたんですけども、そういった中で一回仕事に疲れ果てて、会社を辞めて、1年だけOLを辞めていろんなことを経ていこうという中で、農業あるいは田んぼといった現場に出会いまして、そういったいろんな課題がある中で、課題が課題がと言い合っているけども仕方がないなということが一つの自分の原点になっています。課題があるのであればそれを価値とってもらえる人を見つけたいということで、川もそうなんですけれども水田あるいは農山村の方に入りながら仕事をしてまいりました。

今、滋賀の方で3歳半の子どもを育てています。私にとっては、滋賀の水、それから大地というのが、子どもが未来、そこで生きていくための非常に大事な基盤になりますので、こういった会の中で皆さんに教えていただきながらすばらしい滋賀を残していけるような役割を自分でも見つけていきたいと思っています。どうぞよろしくお願い致します。

**福廣さん：**菊池さんと僕は、年に1回、この会だけお会いする関係、冬の七夕。次、片寄先生お願いします。

**片寄さん：**「かたよせ」といいます。肩を寄せ合って生きていこう！という、やさしい心の持ち主でございます。



この会は、実は、第1回第2回、私が司会をさせていただきました。ほとんど歌を歌っていた記憶があるんですが、最近、のどをちょっと痛めまして、アコーディオンにはまりまして、やっとちょっと一つ弾けるのが「川が呼んでいる」という、「ら～ら、ら～ら、ら～らら」という、これがちょっと弾けるようになった程度でございます。そういった川好きです。

元々は、実はバリバリの技術屋さんでありまして、大学を出てからですね、大阪府の千里ニュータウンの大規模な開発、大規模宅地造成の実施設計というのを担当しまして、だからバリバリの技術屋で、洪水がでたらどうするかとかですね、山をどうやって削るかとかですね、「なぜ、君は山を削るんですか？」、「そこに山があるからだ！」とか、



そんなことをやってきた人間でございます。

次第に私も朴先生に負けず劣らず丸くなってきまして、やはり削ったり埋めたりするだけではだめなんだよ、いい川をつくっていいんじゃないかということに、だんだん、私自身も技術的な面も含めて、深く切り込んでまいりました。

大昔に、私は学生時代、アフリカのチンパンジーの調査隊の一員で今西錦司さんという方に付いていった時に武勇伝がありまして、そのご縁で嘉田さんとも親しくさせていただいた経緯があって、ここに呼んでいただいております。

まあ今は単なるじじいではありますが、「川ガキ」という言葉がありますが、「川じじい」というのは私が第1号と思います。

**福廣さん：**片寄先生は、僕にとってまさしく師匠でございます。もう一つ、先のさとうさんのお話をしましたが、今ほどは歌を歌ってもらいましたし、後でスケッチも出ます。すごいアーティストであります。

では、The 知事の嘉田さん、よろしくお願いいたします。

**嘉田知事：**琵琶湖研究所の時代から、水と人、湖と人のかかわりをどう再生していくか、私の理想は昭和30年代、懐かしい未来なんですけれども、そう思っている時に山道さんが『多摩川』という本を出してらっしゃいました。1975年から川の文化、歴史すべて総合的な川の雑誌でして、それで私は山道さんにすぐラブレターを書いて、そこにも書かせてもらいながら縁をつくらしていただきました。



その前に、片寄さんは、1960年代、『ブワナトシの歌』という本がありました。私はまだ高校生でした。ああ、こういうところでアフリカに行けるんだということ、実は大学で探検部を選んだのもこういう皆さんの影響なんです。

というような、(マイクの調子が悪く、ハウリング)もうやめろということですね。(笑)

全国大会の「いい川・いい川づくりワークショップ」が、15回でしようか開催されているのですが、かなり最初の頃から選考員として参加させていただいています。ポイントは1つ。とにかく選ぶ人、選ばれる人が同じ目線だということです。活動する人が、みな同じ目線で仲間になって当事者意識がもてる、こうい

う場面は極めて少ないのです。

今日は、1メンバーとして、まさに今日隠れ職員がたくさんおります、環境の隠れ職員もいます、農業も林業もいます。職員とともにこういうやり方を河川だけではなくて、他の部門にも広げていきたいなと思います。

滋賀県庁の中に、そして市町の中に、こういうお互いに公開で褒めあう文化をひろげていけたらなと思っております。今日はよろしくお願いいたします。

**福廣さん：**ありがとうございます。当事者であって、1メンバーであって。今日は、

朝から夜までフルタイム出席していただく知事です。

そういうメンバーで進めます。

ではこれから、先ほどから選ばれたとってしまわんとあかんのやけど、10のプロジェクトをみんなの前でもう一度発表いただいて、「いいところ見つけ」の会を進めさしてもらいたいと思います。

3時半まで発表をいただいて、それに質疑なんかを重ねていきたいと思います。

10のプロジェクト、ちょっとしんどいですがけれども、一気にいかせてもらいますので、よろしくお願いします。

去年の記録集をみていると、突然Cグループから始めたりしてたんですけども、

ややこしいので今年はまた戻ってやりましょうか。A、B、C といふとなんか序列があるような感じがして気になってしゃあないので、こんなことをしたんです。

ではA-1の白鳥川さんからやっていただきましょうか。

発表5分、短くても結構です。長いとちょっと具合悪いです。発表5分でお願いします。

みなさん10のプロジェクトの発表を始めていただくのですが、時間を計って、ちょっと無粋な「チン！」というベルが鳴りますが、ご容赦願います。タイムキーパーの方は悪者になってくださいね。

では、A-1 白鳥川の景観を良くする会さん、よろしくおねがいします。

-----

## ■A-1 白鳥川の景観を良くする会

一番最後におまけで選んでいただきました。白鳥川です。

今日は、代表の吉田が選考委員のため、代わって中野が発表します。よろしくお願いします。

私ども白鳥川の景観を良くする会、まず最初に、白鳥川の全体の概観図です。

非常にきれいな川です。3面張りではなく自然な川です。

近江八幡の駅の近くから琵琶湖畔まで約5km、この間の清掃、桜並木づくりとすることをやっております。

目的は、景観の向上、桜並木5km、憩いの場の散策づくり、生きがいつくりです。

2006年からスタートしました。今年9年目になりました。会員は58名、7班に分かれて一人ひとり役を持っています。月2回ないしは3回、年間28回、先ほどの5kmを活動場所としています。定例では、除草ごみ拾い、



桜並木づくり、後でお見せしますがぼんぼり等の設置散策路の取り組みをしています。

5 kmをどうやっているか、1回あたり600m×10回、5か月かかります。5か月で5 kmの草刈りを全部やって、次の5か月で2回目をやる。だから、年間ではほぼ2回半刈っております。

これは定例作業の状況です。朝定例ミーティングをやって、草刈りの道具をそろえて、準備体操をして作業します。

安全保安員を2人選んでいます。これだけ人数がおりますと、ケガをされると困りますので、安全保安員を毎回毎回選んで、現場の安全パトロールを、それから危険な時には注意をする、一日終わったらその所感を述べて後の反省に生かすということをやっています。

これは、定例活動の草刈りの状況です。非常に夏場は大変です。みんな頑張っています。

ごみも結構あります。川の中までごみ拾いをやっています。

これは桜です。いろんな桜650本あります。管理台帳をつけて管理しています。

これは台風18号時の状況です。決壊すれすれの状況でした。台風後3日目の写真です。桜が倒れてしまいました。その始末も我々がやっております。

事業ですけれども、桜ぼんぼり、鯉のぼり、こどもさんを川に入れて一緒に勉強する、あとベンチをつくるということをしています。

桜ぼんぼりですが、ここにサンプルを持ってきました。この絵は、近所の子どもさんや学生さんに集めてもらって、この絵をラミネートしてぼんぼりを作っています。

これは去年のものです。今年は、もう一回この絵を集めています。280枚集まりましたので、その絵を全部取替えます。それを吊ります。そうすると、お子さんたちは自分の絵がどこにあるのかを見てくれる、それで子どもさんたちといろいろな関係を持っている。

これは学習会の状況です。川の中まで入ってもらってやっています。非常にたいへんなことなので、今ほとんどの子どもさんは川に入れられないという状況なので、この活動をサポートしています。

年間のごみの量、それから草刈りの距離です。

毎回約30名前後集まってくれています。

今後の課題です。まず後継者。それから情報の共有化。お金は全部ボランティアでやっていますので補助金しかもらっていませんのでこれをどうするか。それから先ほどからいっておりますがこれからも子どもたちとの連携ということを考えていかなければと思っています。

最後です。ホームページを持っていますので、ホームページで全国のみなさんにもお知らせしております。

ご清聴ありがとうございました。今後とも白鳥川景観を守る会の活動にサポート

いただけるよう、よろしく申し上げます。ありがとうございました。

-\*-

**福廣さん**：見事な時間配分でやっていただきました。

さて、早速に選考委員のみなさんから、質問なり感想なりご意見なりをお受けしたいと思います。

**片寄さん**：質問。先ほどね、掃除ですかね、「体調のすぐれない人を中心にやった」とおっしゃった？

**「白鳥川の景観を良くする会」さん（以下「白鳥川」さん）**：体調がすぐれない人はごみ拾いです。高齢者なので機械は持てない、だけれども参加はしたい、そこに参加すること自体がその方の喜びになる、それからここに来ることが喜びですという方もいらっしゃる。

**片寄さん**：すごいなあ。体調がますます悪くならなかったの？（会場 笑）

**「白鳥川」さん**：「今日は体をよく動かしたから、メシがうまいわ」とのことでした。

**片寄さん**：ありがとうございました。

**福廣さん**：健康のもとですね。はい、では朴さんお願いします。

**朴さん**：私は質問ではなく感想を一つ。簡単にキーワードにまとめてみました。みなさん見えますか？AKBならぬ**「AKT」**です。

AKB ご存じではないですか？ちょっと年齢がわかりますねえ。今大変なアイドルですが、おじさまはいろいろあるんですけども、AKT といったのは、まず安全を第一に考えていくとの A、それから K は健康、環境、こども、今後の課題。そして T は楽しくということで AKT。これからもがんばっていただきたいなど、滋賀には AKT があるぞということで。

**「白鳥川」さん**：ありがとうございます。AKT これから使わせていただきます。

**福廣さん**：ありがとうございます。今日の進行は、選考委員の方には大きな付箋にキーワードを書いてもらって貼ってもらおうと思っておりますので、みなさんそのように進めたいと思っております。

次、どなたか質問、感想ございませんか？はい、山道さんお願いします。

**山道さん**：今おっしゃっていた、要するに具合が悪い人でも川に行くと確かに元気になって、ご飯もうまいし明るくなると。これはねえ、本当にねえ、今医者が注目しているんですよ。それで、子吉川という川が秋田にあるんだけど、病院が病気の方を全部川に連れて行くんです。そうするとおっしゃったようにね、よく眠れる、薬の効き方がいい、血糖値血圧が下がるところ、すごいことなんです。これね、データをとられると学会発表できるんじゃないかと。がんばっていただければと思います。是非ね、**「川で医療を」**というキーワードを出しました。

**福廣さん**：白鳥川さんは、データ記録されるのはものすごく得意な団体さんですからね。

はい、どなたか他おられませんでしょうか？会場からも何かありましたらいただきたいのですが。時間のコントロールが難しいけどね。はい、嘉田知事どうぞ。

**嘉田知事**：まさに、白鳥川の横は近江八幡の市民病院ですよね。ですから是非データをとっていただいて。実質、市民病院の方はよく花見とかに出てきてくれはりますやん。だからぴったりだと思います。

それから彦根の市民病院は、横に犬上川があります。それから長浜の市民病院は、横に長浜新川があります。ずいぶん水辺と医療施設ってね、県内みるとありますので、これ県の次のプロジェクトにしたいなあと思います。ありがとうございます。

**「白鳥川」さん**：ありがとうございました。貴重なご意見、吉田代表と相談してどうするか決めさせていただきます。

**福廣さん**：病院と連携すると「AKB」に戻りますね。

はい、どうでしょうか。会場からも頂戴したいのですが。選考委員の方を中心にやりますから優先ですけれども。

はい、一応終了時間になりましたので不足感はいろいろあると思いますが、2つめのプロジェクトに行かせていただきたいと思います。

次は、A-3 渋川生き物絵図作成支援委員会のみなさん、よろしくお願いします。

-----

### ■A-3 渋川生き物絵図作成支援委員会

これから私たち渋川小学校の取り組みを紹介します。ある日の授業のこと。

(寸劇)

「はい、じゃ、みんな見てください。これが昔の渋川の記憶絵図です。まず、気付くことはありますか。」

「あ、あそこにキジがいるよ。」

「はい、はい、あんなところに、キツネもいるよ。」

「うわー昔ってこんなに生き物がいたんだね。今っているのかな。」

「あー、いないよ。だってマンションだっていっぱいあるし、渋川って結構都会だしね。」

「えーどうだろう。んーじゃー調べてみたらいいんじゃない。」

「あ、調べてみようか。」

「あ、でも僕らだけじゃ無理だよ。」

「あ、だって、魚だとか虫だとかいっぱいいたら大変じゃん。」

「あ、確かに。」

「そうだ、全校のみんなに頼もうよ。」

「お、いいね。」

そこで、全校でキックオフ宣言をして、地域の人との協力のもと、季節ごとの生き物調査をして、絵図にまとめることにしました。

(寸劇)

「うわ、こんなに協力してくれる人がいるんだ。」

「いろんな大学の人や、博物館の人も協力してくれているね。」

「よし、みんなで生き物を調べよう」

「1年生は草花、神主さんと。」

「2年生も草花、タブレットを使って学生さんと。」

「3年生は昆虫、大学の先生と。」

「4年生は鳥、野鳥センターの先生と。」

「5年生は魚、地域の方たちと。」

「6年生は土壌生物、琵琶湖博物館の方々と。」

「はい、じゃー絵図の下図絵案には、どんなものを入れたいですか。」

「はい、たくさん生き物を見つけたから、やっぱり生き物を入れたいな。」

「はい、でも都会だから、ビルとかも書きたいし、それに電車とかもやっぱり走らせたいよね。」

「そうだね。やっぱり僕たちの渋川の町もわかるようにしていきたいな。」

支援委員会では、このような子供たちのアイデアを取り入れて、下絵を作っていました。出来た下絵に子供たちは、生き物や生き物とかかわる自画像を貼り、絵図を完成させました。これが、その生き物絵図です。



（場内：うおー）

絵図には、553名の全校児童と子供たちが見つけた百種を超える生き物が描かれています。そして、完成記念式典をして地域の人といっしょに喜びました。実は、もうひとつ絵図と同じぐらい大切な宝物を子供たちは作りました。子供たちは、イラストを描くだけでなく、その時の思いを文章にしていました。全校児童

の感想をまとめたものが、この生き物語りファイルです。553名の感動が詰まっています。

「渋川のことをもっとみんなに知らせたいな。」

「それじゃ校内に展示したり、環境会議で発表したりしましょう。」

「はい、先生。みんなに見てもらうためにも大型ショッピングモールとかに展示するのもいいと思います。」

「いいね。いいね。」

子供たちは、伝える活動にも力を入れました。環境会議では堂々と自分の言葉で大好きな渋川のことを語っていました。先日は環境副大臣と政府官が絵図を下見に来られました。大臣からは、「子供たちだけでなく、みんながつながった地域一丸の取り組みだ。」と評価していただきました。

絵図ができた後に子供たちに環境を守るために一番大事なことは何かと質問したことがあります。話合いの末、子供たちが導き出した結論は、「ふるさとを好きになること。」でした。人や自然とのかかわりを通して、ふるさとの環境を自分事と

とらえるようになっていました。みんなの協力のもと描いた絵図には、大切なふるさと像が描かれていたようです。このようにふるさとが大好きな子供たちによって、持続可能な社会が作られていくと信じています。

これで終わります。

\*\*\*\*\*

**福廣さん**：ありがとうございました。僕 4 年総合コーディネーターをさせてもらって、絵図という言葉、この場で出てきたのは初めてです。さて、質問なり感想なり、これは、まずさとうさんから。

**さとうさん**：はい。あの、とても楽しい絵でもっと近くで見たいなという感じなんですけれども、そうですね、これは何人くらいで書かれたんですか。お聞きしたいです。

**「渋川生き物絵図作成支援委員会」さん（以下「渋川委員会」さん）**：子供たちが書いていますし、この下絵は、全職員が書いていますし、色付けも全職員がかかっていますし、地域の方もかかっていたいただいています。たくさんの方にかかっていたいただいています。案は、先ほど支援委員会でも出ましたけど、心象絵図の手法を考案された上田洋平先生にもかかっていたいただいています。

**さとうさん**：ありがとうございます。

**福廣さん**：はい、引き続きどなたか。はい。

**片寄さん**：失礼ですけど・・・あなた方は何者ですか！？

**「渋川委員会」さん**：はい、紹介が遅れました。渋川小学校の職員です。4 人とも。

**片寄さん**：あっ、女子高生かと思った。失礼しました。

（会場 笑い）

**福廣さん**：はい、他にいっぱい質問がありそうかなと思うんですが。

**山道さん**：記憶絵図っていいですね。いろんなところで古いものを集めたりするんですけど、本当に記憶絵ってというのは、新鮮に感じますね。

この後、これをどうするかっていうあたりがあって、みんなふるさとが好きになるというのだったんですけども、古い写真とか古い思い出を集めて将来の町とか地域のビジョンをですね、市民と行政が共有するというそういう材料に使うと効果的かなと思うんですね。

ぜひ、この先をもう一歩子供たちとともに何かやっていただけるとすばらしいアイデアとかまちづくりができるかなと、いい川も含めてできるかなという気がしましたね。すばらしい活動ですね。できれば小学生の子供たちがきてやってくると、もっと良かったかもしれませんね。

**「渋川委員会」さん**：ありがとうございます。

**嘉田知事**：子供たちの感想はあるのですが。聞かれた地域の人とか、昔のことを話しをした、まさに高齢者が元気になったとかそういうことはなかったですか。

**「渋川委員会」さん**：高齢者ではないんですけども、地域の方が応援に来てもらっていて。

**嘉田知事**：はい、今日来ていらっしゃる。ぜひ地域の方のご意見も聞かせていただけ

るとうれしいですね。あの、なかなか学校と関わりにくいですよ。そういう時に地域から出ていく話、お願いします。

**地域の方**：渋川小学校のさっきの説明の中の最初に渋川の風景の記憶絵を5年前からスタートしまして、3年前に完成して、その時に絵を描いてくれと頼まれて、その仲間の一人です。

50人のプロジェクトで風景の記録絵ができたんですけども、渋川の風景の記憶絵ができて、それから、その絵を見て小学校のみんなが、生き物探しをしようというそこに発展した。風景の記憶絵が小学校に飛び火したということで、僕は、ものすごく喜びました。

その時に、6年生5年生3年生2年生がキックオフ宣言されたときに、僕に宣言書受け取ってほしいといわれまして、それで小学校に行きました。その時の子供たちの意気込みを、もろに受けまして、携われた先生方と一緒に授業が終わった後に、皆さん遅くまで残って、一緒に私も参加させていただきました。地域の方々の協力で、この屏風もできました。予算がないと、小学校は予算がないとみんなの地域でやろうということで、完成しました。

この絵の中に、今日の川のフォーラムなんですけれど、伊佐々川という川がカーブしています。それから左に葉山川があります。大きい川はそんなんですけども、本当に細かい川が昔は、ここ全部水田やったんです。川を大事にしていた僕らの仲間、先輩方の老人の方々の風景の記憶絵を見て小学生の方々が生き物探しをしてもらってこの絵ができました。(絵図には)人がいっぱいですね。生き物がどこにいるんや、あれなんですけれども、いっぱいいました。見えてないんですけど、**僕らも生き物のひとつや**と、僕はそれをものすごく強く感じました。一緒に生きてるんや、と、生き物絵図、川、水と太陽と風とか土とか大切やということが、この絵にありましたので、よろしくをお願いします。

**福廣さん**：ありがとうございます。今、**僕らも生き物のひとつや**とおっしゃっていただきました。今日ソチオリンピックで、審査員に行かれています遊磨さん、(例年、選考員でご参加ですが)今日は欠席ですけども、遊磨さんは、人間も一緒に生き物やな、といっつも言われていますね。はい、ありがとうございました。時間おしいですけども次行きます。

次はA-5 せせらぎの郷のみなさんよろしくお願いします。

え一次からの皆さん終わりそうになったら時間節約のため、すぐ出てもらうよう準備しておいてください。じゃ、お願いします。

\*\*\*\*\*

## ■A-5 せせらぎの郷

みなさん、こんにちは。我々は、野洲市の須原とせせらぎの郷というところから発表に来ました。

我々の取り組みというのは、魚のゆりかご水田ということで、ゆりかご水田の

方を取り組みしていただいているんですけど、パネルの一番左の昔の様子ということで昔は、琵琶湖と田んぼの水面が同じになっていまして、そこで魚とかその日食べる魚とかそういった自然の恵みを自然に感じられて、自然とのつながりの中で我々も生かされているという環境でした。

その中で現在、今の排水路ということでコメの生産性を上げるためなのか、田んぼをきれいに整地して排水路の方も琵琶湖の水面と段差ができるような形で、魚は以前は、田んぼの方で産卵をしていたんですけど、今の排水路になってからは、魚が排水路を遡上して田んぼで産卵できる環境ではなくなった。自然とのつながりが、途絶えてしまった。そういった環境になりました。

そこで上から 2 番目の、せき上げた魚道ということで、排水路に段を作ってせき上げていって、魚の道ということで魚が琵琶湖から遡上して田んぼで産卵できる環境を作りました。

そこで魚が産卵できる環境を整えて、後、田んぼの方でも魚が産卵して稚魚がそのうち琵琶湖に帰るんですけども、そこで成長できるように、農薬とか除草剤を使わずに、なるべく減らして、減らすような形で米の方も作っております。

そういった取り組みをさせていただいて自然とのつながり、自然との恵みというのをもう 1 回見直そうということで取り組みをしております。

そういった取り組みを皆さんに広めたい、こういった取り組みをしますよということで田んぼのオーナーさん、オーナー募集というのをさせていただいて、そういったことを広めようとしたり、オーナーさんを募集して 2 段目の田植体験、魚つかみ体験、稲刈り体験をさせていただいています。



その中で、大阪の方で収穫祭、吹田の方で収穫祭、東京の方で収穫祭等、その活動の輪というのは、年々徐々になんですけど、広まっている状況にあります。

その中で、子供の地元の小学校への出前講座に行きまして、こういった取り組みをしている。小学校の生徒にも生き物の大切さ、そういった恵みの中で生かされているということを伝えるために出前講座。大学のゼミ講座ということで、こういった取り組みに視察も最近では、去年お見えになっています。

あと、伝統文化の継承ということで、ゆりかご水田、魚道に上がってきたふなをつかんで、それを鮎ずしにしてみんなで食べたりとか、そういった昔の食生活をもう 1 回見直そうと取り組んでおります。

最近では、六次産業化ということで、ゆりかご水田でとれたコシヒカリをお酒にする取り組みをしております。このお酒をつくる取り組みは、耕作をしない若い人が一緒に取り組めるということがメリットで、僕は、耕作をしているんですけど、

違う若い、地元の若いメンバーがこういったお酒には取り組めるということで、地域全体として今はこのゆりかご水田に取り組んでおります。

以上です。ありがとうございました。

\*\*\*\*\*

**福廣さん**：ありがとうございました。時間ぴったりで終わっていただきましたが、さあ、さてみなさんご質問、ゆりかご水田、ご質問、ご意見を。

**山道さん**：ゆりかご水田という命名はどなたが

**福廣さん**：これは知事、教えてください。

**嘉田知事**：琵琶湖博物館時代に、昭和 30 年代の聞き取りをすると田んぼは、魚の産卵場だったと。(魚がたくさん集まって島のように見えるので)「うおじま」ってというんですけれども、その「うおじま」を復活しようということで博物館の研究成果を出して、そして行政の事業にして、名付けもしました。

**福廣さん**：はあ、そうですか。これは、全国的に使われていませんか。

**嘉田知事**：全国的には、「生き物の産卵場」、田んぼですから「冬水田んぼ」とかありますけれども、なかなかこう、湖の周辺に田んぼがあるところは少ないですね。霞ヶ浦なんかは、比較的応用可能だったと思います。

**福廣さん**：じゃー菊池さん、霞ヶ浦つながりで

**菊池さん**：須原の方の取り組み、4 年ぐらい前にお邪魔させていただいて、その時は、本当にみなさんどうしようって、それこそ魚が上がる田んぼだから「ゆりかご」というところまではあったんですけれども、そこで戸惑われていて。その中からこの仕組みの流れの中で、自分たちでオーナー制度をやってみたり、耕作をされていない方も地域の宝として田んぼにかかわる仕組みを作っていきたいとか、みなさんの試行錯誤のなかで、どれだけこう豊かに取り組みが発展されているということに驚かされています。

恥ずかしながら霞ヶ浦は、なかなかこういった取り組みは進んでいないんですね。そういった意味で滋賀県からしっかりこういうことを発信して、だからこういうことを応用する地域もたくさんあると思いますし、それによって本当に地域の皆さんが集まって話し合いをしたり、どうやったらいいだろうかと寄り合うもっとすごく素敵な種にもなっていくと思うので、いろんな意味で頑張ってくださいなと思ってメールを送らせていただきます。

**福廣さん**：ありがとうございます。朴さんそれではお願いします。

**朴さん**：ひとつ教えてほしいんですけれども、今後ひとつのまあ、大きな主題となるだろうと思うんですけれども先ほど一次産業の六次産業化ということを、いい言葉を述べられたんですけれども、水田つまりお米からの六次産業化というのはなかなか厳しいものがあるのかなと。

ただこの地域は、大阪とか、またいろんなところの近くにいろんな会とかあるので、ここでゆりかご米でブランド力を高めれば、何かなるのかなと思うんですけれども、具体的な戦略とか考え方とかあるのでしょうか。

「せせらぎの郷」さん：はい、ありがとうございます。特にないんですが、我々の思いとしては、より皆さんに知っていただきたい。そして、こういったゆりかごという活動そのものを広げていきたい。という思いで、さらに、六次化ということで、お酒を試みた次第であります。

ちょうどこれは、2年前からですね、いろんな方に相談申し上げて地域で何回か、数回寄り合いを重ねてまいりました。結果、よしやろうということで今年の8月だったと思うんですが、地域の皆さん、関係者の皆さんにそろって特にこのコシヒカリでお酒造りということは、滋賀県でも珍しいことでございます。一人でなく耕作者10人それぞれのコシヒカリでやらしてもらおうということで、やっております。

朴さん：ぜひとも、「ゆりかご米」というのが、日本全体のブランドになるようによろしくをお願いします。

「せせらぎの郷」さん：ありがとうございます。ご支援よろしくお願い致します。

福廣さん：「ゆりかご米」ね。「ゆりかご酒」も出ますね。次は。はい、いかがでしょう。よろしいでしょうか。あとちょっとくらいは時間が。はい。

山道さん：住民の活動でですね、本当にみなさんまじめにやっておりますけれども、最近もっと楽しくやろうよという話に加えて、「おいしいものを食べよう」という、「おいしい川づくり」という発想が出てきて、ぜひですね、お米だけではなくて「おいしいゆりかご水田」みたいな発想で行くと、まさに鮒ずしもそうだし雑草もそうだし、いろんなことをやることが、いろんな人を集める要素になるので、ぜひいろんな試みをしていただけたらいいかなと思います。

「せせらぎの郷」さん：ありがとうございます。

福廣さん：ありがとうございました。えー次はB-3 守山市勝部自治会。

-----

### ■C-3 守山市勝部自治会

勝部自治会副自治会長の小林と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

後ほどここで出てくると思うんですが、カフェ「ちょっと」を昨年始めましたので、団塊の世代より私は少し若いんですが、一応一員でありますので、今日はそのカフェ「ちょっと」の衣装で発表させていただきます。

5分間で流れるように作っておりますので早口でしゃべりますけど、どうぞよろしくお願いいたします。

人口が8万人を超えた守山市の中心市街地にあり昨年12月現在で4475人が暮らす大き



な自治会です。

小学校、幼稚園、保育園、エルセンター、こども園等の教育機関や勝部神社、用水ポンプ場、北野池跡、親池跡、高見の池跡など水辺のトレジャーもあり、駅前にもかかわらず丹堂川など 9 河川が水をたたえ水辺には賑わいがあります。町内の水辺の古きをたずねて新しき挑戦の中から親水、防災、水の恵みが生きる活動をお伝えします。

地域にスポットを当てて 4 年目となるウォーキング、自治会イキキ事業の歴史文化サロンの皆さんを案内人に昨年は水辺のトレジャーハンティングに出かけました。

ごみゼロ運動も兼ねて会館を出発、大川のカバタや千代町にあるポンプ場、たちばな川の上流にある勝部の川の命・用水工など地域のお宝にも触れました。

親水活動は 5 回を数える水フェスタの会場で子供たちのチャレンジです。遊歩道の手作り看板は 2010 年に制作したんですが、昨年すべてリメイクしました。

中水川勝部ホテルの道やホテル保護指定区域に指定された今宿川勝部ホテル北の道にあるすべてのものをリメイク、取り付けはまちづくりの皆さんです。

子育てサロンのちびっこたちも水車の前で水遊びに歓声を上げて、部屋では風鈴づくりを楽しみました。水フェスタで放流や魚や水棲生物などの観察は子供たちにとって楽しいひと時です。水辺の生態系や自分たちがすべき環境保全の学習も継続中です。

高齢者も生き物の観察に挑戦しています。中学生は夏祭りのためにタチバナ川沿いカエデ参道にペットボトル灯籠の準備や人気の着ぐるみの出演、お化け屋敷、模擬店のテント設営など今年も盛り上げてくれました。

一方高齢者も水車復活プロジェクトに住民から無償で材料提供や技術協力等を受けて、今回は水車をパーツに分けて、傷んだ時にはそれぞれ傷んだパーツを交換すれば壊れても交換することで回り続けるであろうという設計をして園児たちが見守る中、安らぎの場に 2 台目の水車が復活しました。

防災活動では、10月の総合防災訓練で婦人消防隊の指導のもと、子供たちは水消火器で消火にチャレンジをしました。高齢者はウラ町、守山女子高校の火災で活躍した雄姿を最後に 7 年間保管されていた汎用ポンプいわゆる人力ガッチャンポンプを見事修復しました。水車と同様手作りのボランティアです。定例訓練で試運転して総合防災訓練や出初め式でその雄姿を披露しました。中心になったのは、勝部昇竜会のメンバーです。手作りの格納庫も完備しています。

水の恵みを生かす活動では小学生が平均年齢 80 歳以上という「お袋の味伝えたい会」の方の地域の材料を使った郷土食づくりに参加し、夏はヨモギもちや流しそうめん、舌鼓をうちました。文化祭では餅つきもしています。孫たちの指導だけではなくウォーキングでの昼食に豆団子とかお母さん達相手の講習で 3 年前にはあめのいわご飯もいただきました。今年は男性の料理教室も開講しました。琵琶湖の湖魚やエビを使った滋賀ならではの料理をつくりました。地域の丹堂川で取れ

た鯉を使ってあらいとか筒煮をおいしくいただきました。

団塊の世代の挑戦もあります。地域福祉のプロジェクトとして「ちょっと」カフェを開店。当日豆をひいて注文が入ってからコーヒーを入れるこだわりで、コースターや帽子もメニューも手作りです。夢は青空カフェです。農業組合の方のプロジェクトもあって、焼きトウモロコシの出店があったりします。

鎌倉時代から続く火祭り、これを取り仕切る松明組は小学生に水フェスタでかき氷を振舞ったり、松明体験の機会を設けたりして、子供たちに次を継いでもらうような工夫をしています。

自治会協力のもとで営農倶楽部さんを中心に松明の菜種がらを育てるように守小の三年生でやって四年生で刈り取る体験もさせていただいています。

地域のトレジャーを守るためには、やっぱり維持管理活動が欠かせません。年二回の町あげての活動は、合計1700人ほどの参加があり、二トントラックで山盛り10杯ほど集まります。最近では住民の方に頂いたカキツバタも見事に花を咲かせました。

水あつての水車、水あつての腕用ポンプ、水あつての安らぎ、水あつての癒し、そして水の恵みを受けた料理が地域の人と人をつなぐと考えています。地域のトレジャーとともに心とむ四季の移ろいを次世代に引き継いでいきたいと思っています。

ありがとうございます。

\*\*\*\*\*

**福廣さん**：ありがとうございます。これだけのフルプログラムなら5分はしんどいですね。さて、早速、質問感想をお願いします。

**片寄さん**：自治会でやっておられるんでしょ。なんという自治会ですか。自治会に最近入らないという人も多いが、そういう白けた人もおられるんですか

**「守山市勝部自治会」さん（以下、「勝部自治会」さん）**：中には数名います。ほぼ皆さんに入っただけ、入っただけなら必ず自治会館、住吉会館といいますが、会館を訪ねてくださって、私たちと対面してお話をさせていただいています。

**片寄さん**：自治会費はどれくらいですか（会場 笑い）

**「勝部自治会」さん**：月500円です。

**片寄さん**：ありがとうございます。

**福廣さん**：つづいて、さとうひさ彥さん。

**さとうさん**：去年もプレゼンテーションがすばらしくて見ただけで5分間圧倒されているんですけども、今年は割烹着の姿で来られて、それがすごく新鮮な感じなので、次からのプレゼンテーションは、何かもっとアナログ的なところで打ち出して、より面白いプレゼンを見せて頂ければ嬉しいと思います。

**福廣さん**：さて、ほかにいかがでしょうか

**山道さん**：**「ちょっとだけ」**ていうの、いいですね。さっきの北浜の話もそうだけど、これキーワードですけど、頭の中でイメージしていることを、ちょっとだけでもい

いから具体化するといろいろな共感というか、できるものが出来上がると思うんですよね。ちょっとだけカフェというのは何か理由があるのですか

**「勝部自治会」さん：**皆さんに「ちょっと寄っていかか」という気持ちをもっていただきたい。必ずそこに行かなければいけないじゃなくて、とおった時に、「ここ、カフェって書いてあるけど、ちょっと行こうか」という気持ちで、町内の方以外の方でも寄ってくださる時がありますので、それは感激しています。

**山道さん：**「ちょっと」が「ちょっと」で済まなくて「もっと」という話にならないですか（会場 笑）

**「勝部自治会」さん：**回数は「もっと」になってという希望はあります。

**山道さん：**「ちょっとだけ水辺」をみんなで作りませんか。ありがとうございました。

**菊池さん：**お話ありがとうございます。私も聞けば聞くほど毎年進化していく取り組みに改めてびっくりしているんですけども、最初の頃はどちらかというと川を守りたいというお話だったと思うんですけども、それをちょっとご褒美を頂く代わりに直していきましょうみたいな、地域とか自然と人の構成がすごく楽しいなと思ってお話を伺っていました。

**福廣さん：**双方向性ですね

**嘉田知事：**伝統の勝部の火祭りを維持していただいているということで平安時代からの。火祭りって男性世界ですよ。神社とかだいたい男性が多いんですけど、女性として入り口とかやりにくさとかあったら教えてください。

**「勝部自治会」さん：**実際に松明を担ぐことは、私はできないので、若者たちの苦勞を周りの方に知っていただきたいという気持ちがあって、この場合もできるだけ松明の方にいろんなお話を聞いてここへ来させていただいているのですが、だいたいお祭りというのは、神社の方からお金が出てされていると思うのですが、うちの火祭りは違います。守っている松明組という中学生から35歳までの男性で構成されているその組員が自分たちで管財を集めて、そのお金の方で神社の方に奉納している形になっています。だから、人を集めるにもお金を集めるのも大変苦勞しているのと、第二土曜になったということで、3日の日にいろんな行事があるんですけど、その行事の後から本番の火祭りの日までに相当期間があくことがあって長く休みを取らないといけないという時に、企業さんに、こんだけ休むのかと言われると言っていましたので、企業の方にも地域の祭りを守るそういう何かちょっとほしいなと、それをできるだけこういう場で伝えておかないと、あの子たちが伝える訳にはいかないので、それが女である私の使命かなと思っています。

**福廣さん：**さすが女性知事の所だけあって、違いますね。ありがとうございました。

僕、三重の名張なんですけど、お祭りは、そちらと一緒に住民がお金を出して住民主催でやっています。安心しました。次は長浜杉野地域の皆さんお願いします。そのあとCの2、3、4で行きますのでそのつもりしておいてください。

\*\*\*\*\*

#### ■ B-4 長浜市木之本町杉野地域づくり協議会&長浜市北部振興局産業振興課

そうしましたら、長浜市の杉野地域の取り組みについて紹介させていただきます。

杉野地域のこの取り組みはさきほどの午前中の会では最低評価だったので、こちらは、水車好きの方がたくさんおられるということで、水車の話になりますのでよろしく願いいたします。

ちょっと省略させていただいて、杉野地域は長浜市木之本町にありまして、国道303号沿いのまっすぐ道を抜けますと岐阜の百合川町に抜けるということで、杉野川が地域を流れています。

この杉野川から農業用水を取っておりまして、その用水は年中水量が変わらないという用水がございまして、そちらに滋賀県の農村の近いエネルギーという事業を今年作っていただきましたので、長浜市のほうも一緒になってこの取り組みを杉野地域でやっていただくと。杉野地域は、さきほど申しました用水を使って、何か水力発電できないのということを前々から考えていらっしゃるところでして、そこに今回この事業で取り組むことにしていただいたということです。

12月に杉野小・中学校、地元にあるんですけども、こちらの子供さんたちに、地域のお寺の境内なんですけども、来ていただいて再生可能エネルギーの勉強をさせていただいたり、そこで「ピコピカ」という既製品で小水力の発電装置なんですけども、子供たちと一緒に地域の方と組み立てていただいて、それを用水路に持って行って設置していただきました。新聞でも取り上げていただき、もしかしたらご存じの方がいるかもわかりません。

無事につきまして、全く電気のないお堂だったんですが、きれいな明るいうライトがついたということで地元の方にも喜んでいただいています。

これからの杉野ということで、先ほどのパネルの時から感心いただいているのですが、手作りで螺旋水車を作るということを今やっています。地域の裏山から木を伐りまして、その木を加工して、こういった形の螺旋水車にしていこうということで、この写真は京都市の伏見工業高校の先生が学校で作られたものなんですけど、これを拝見いたしまして、これを地域の木で作っていこうということで、今は途中なんですけど、枠組みとこの木の長さをそろえて切るところまでできています。

これから、これを少しずつしながら、組み立てて設置していくというところですよ。

発電機は、自転車のハブダイナモを使っていますので、ほとんどホームセンターやネットで簡単に購入できる部品を使って、低コストで誰でも作れそうな手作りでやっています。もう一月ほどで完成する予定ですので、また、見学に来ていただけたらと思います。ありがとうございます。

\*\*\*\*\*

**福廣さん：**ありがとうございました。はい朴さん。

**朴さん**：環境の専門家として今回は、一言申し上げたいと思うのですが。

応援したいからなんですけど、こんなに“役に立たない”小水力を考える発想がすばらしいと思います（会場 笑い）。

これは全く普段の我々のエネルギー源としては、どうしようもないと思っているのですが、ただ、これがいざという時に、何か災害があった時に、これこそ地元の地産地消と言っているんでしょうか、発想のすばらしさというか、こういうことが絶対役に立つことがあると思いますので、これから蓄電池もどんどん発展していくと思いますので、面白おかしく終わるのではなくですね、新しい技術と組み合わせ、絶対変えないで、二重らせん構造じゃないですが、手作りの螺旋水車をぜひとも成功させて地元の名物にさせて頂ければと思っています。応援します。



**「長浜市木之本町杉野地域づくり協議会&長浜市北部振興局産業振興課」さん（以下「杉野川」さん）**：これを教えていただいた京都市の伏見工業高校の足立先生の所にお話しを聞きに行きましたら、ある地域では手作りの水車をバッテリーでつながれていて、何かの時のために設置されていると。普段は使わなくても、それを置いておかれるという話を聞きまして、そういうことを今後参考にしていきたいと考えています。

**朴さん**：さすがよく分かってやってらっしゃいます。応援します。是非とも続けてください。実物も見せて頂きたいんです来年は。よろしくお願いします。

**福廣さん**：手作りの木の螺旋水車は大変めずらしいですね。さっきの勝部さんは水車のパーツ換えですし、さすが水の国ですね。滋賀は木の国でもあるんですね。どなたかご質問。ご感想は？はい会場の

**会場の方**：取り組みも発想も大変面白かったんですけどね、ここの地域だけではなく、いろんな地域で水が流れているところはぎょうさんあるんですよ。僕は琵琶湖バレイであれをしているんですけどね、琵琶湖バレイでも相当きつい水がね、流れてきている状態もあるし、そんなんをほったらかしにしとくのもったいないちゅうて、知事のあれやないけどね、もっとそういうことを促進して、電力がそんなに大きいことではないかも分かんけどね、それを利用するということで、もっと促進してほしいなと思います。

**会場の方**：ありがとうございます。そうですね、勾配のきついところで水がいっぱいの所ありますね。

**「杉野川」さん**：手作りできますので、ぜひ（笑）

**福廣さん**：いかがでしょう他には。それでは、とりあえず進めさせていただきます。ありがとうございました。

次は、B-5の市民自然観察会の皆さんです。よろしくお願いします。

\*\*\*\*\*

## ■B-5 市民自然観察会

みなさん、こんにちは。市民自然観察会の活動報告をさせていただきます。



市民自然観察会は、平成20年に立ち上げました。目的としましては、自然観察会を通じて子供に自然という遊び場の提供をすること、活動の輪をメンバーだけでなく、地域の市民と共有し合い、生き物との共存の大切さを広めていくこと、西の湖の豊かな自然を次の世代へ引き渡すことです。

西の湖の周囲には自転車道が巡らされていて、約15キロあります。

ヨシ刈りとごみ拾い、それから、小さな植物を虫眼鏡で観ている活動を行っていますが、いつも自然を満喫しながら楽しくやっています。私たちは人と自然・生き物が共存することにより生態系が守られ、人間の命が活かされているとの思いから、発見と感動を大事にして活動しています。

野鳥観察とツバメのねぐら観察を行っていますが、この写真では少し明るいのでまだツバメが写っていないのですが、もう少し暗くなるとヨシ原にたくさんのツバメが帰ってきます。

それで、安土地区でツバメへの関心が高まって来まして、活動が地域に広がってきました。

私たちの主な活動の一つである環境保全活動ですが、最初から自然観察と環境保全活動を同時に出発させてきました。環境保全活動は西の湖園地とよし笛ロードでヨシ刈りをしたり、散在ごみの回収をしています。

貴重な植物がありますので、夏場は草刈りをしています。冬場はヨシ刈りに力を入れています。

西の湖と周辺で野鳥と野草の観察をし、その結果をまとめた冊子としてまとめました。調査の結果、数多くの希少種があることがわかりました。また、ヨシ原は多様な生き物の命のゆりかごとしてかけがえのない大切な場所であることを実感しました。

西の湖に飛来した水鳥が最も多かった年月日と概数を年度別に棒グラフにしていますが、2009年の1月17日には3,000羽が来ております。2,000羽が来ているときもありますし、少ない年もあったということがわかると思います。2～3年は水鳥の数が減って来ているようになっていますが、原因はわかりません。

西の湖の自然と湿地保全の大切さを市民と共有し合い、積極的参加による湿地保全活動の輪が広がっていくことを願っています。そして豊かな自然を次の世代へ

引き渡せるよう努力していきたいと思っています。冊子を環境学習教材として、また、自然観察用に使っています。

西の湖園地で毎月1回作業しているのですが、応援としてネイチャーサポートに来てもらっています。以上でございます。

-----

**福廣さん**：ありがとうございました。さて、ご質問・ご感想をお願いします。片寄先生をお願いします。

**片寄さん**：ネイチャーサポートって、どこの人ですか？

**「市民自然観察会」さん**：みなさんが寄り集まってネイチャーサポートという組織を作っておられるのですが、私もよく知らないのです。(会場 笑い)

滋賀県内のいろんなところから来てくださっていて、私たちでは力仕事ができないので、先ほどのヨシ刈りもしてもらっています。

**片寄さん**：彼らもねぐらを求めておられるのですかね。(会場 笑い)

**福廣さん**：会場からのご質問はいかがですか。どうぞ。

**金尾さん**：琵琶湖博物館の金尾です。先ほどテーブルBで選考させていただいて、もう少しPRしておかないといけないと思います。今選考員には配られています冊子を拝見したのですが、その元となる、今までの観察会の記録がすべてファイルにとじられています。

自然観察をされた時の記録をとり、写真に撮られて、それが冊子にまとめられています。

かなりの種類のリストができておりまして、ある意味学術的にも使えるようなデータでもあり、それを自然観察会を通じて蓄積されていて、おそらくこのようなものがなければ、我々もレッドデータブックの編集もやっていますが、こういう地域の方々が築き上げてきたものには、我々研究者だけが積み上げてきたでは遠く及ばない重要なデータだと思しますので、この冊子自体、そして活動されてきたこと自体、積み重ねに価値があるということをサポートとして言わせていただきます。

**福廣さん**：これも特別なサポートですね。はい、どうぞ。

**嘉田知事**：西脇さんが観察会をやっていて、一番楽しいこと、うれしいことはどういうことがありましたか。そして皆に伝えたいことはどんなことでしょうか。

**「市民自然観察会」さん**：8年間は長いようなのですが、毎月1回ではなくて、3回・4回したこともありまして、新しいものを発見する喜びとか、自然の中で伸び伸びする感覚とか、自然からいただくものがすごくたくさんあって、だからとにかく新しいもの好き、知らないものを知る喜びが大きかったように思います。

**嘉田知事**：ありがとうございます。西脇さんは大阪の方ですか、地元の方ですか。

**「市民自然観察会」さん**：生まれたのは兵庫県の田舎で、尼崎・大阪・京都と住みました。そして今近江八幡に住んで30年を超えます。

**嘉田知事**：ずっと琵琶湖線沿いで。(会場 笑い) 終の棲家にしていただければ。

**「市民自然観察会」さん**：そうですね。

**山道さん**：私ももうすぐ 65 才なのですが、こういう丹念に調査をなさっている方に聞くのは少し失礼かもしれないのですが、こういう知的な調査・研究はボケ防止になるのではないかと。健康の話に近いのですが、やはり覚えなければいけないわけですね。どうやって覚えるかということもあるのですが、そのあたりのご感想を。

**「市民自然観察会」さん**：もちろんボケ防止になると思います。やはり図鑑といっても、**完璧な図鑑というものはないのです**。あっちの図鑑で調べたり、こっちの図鑑で調べたり。正確な冊子を出さないといけないので、かなり頭を働かさないとできなかつたです。8年かかって、今からさかのぼると 10 年前ですので、私ももう少し若かったのでできたと思っているのですが、これからだと少ししんどいと思います。

**福廣さん**：知的好奇心のお話をいただき、ありがとうございました。

次はC-2 特定非営利活動法人芹川のみなさんよろしく申し上げます。

-----

## ■C-2 特定非営利活動法人 芹川

NPO法人芹川です。

芹川は彦根城に注ぐ川として重要だということで、彦根の方々は芹川の自然を守ってきました。時代の変化の中で美化活動をまちづくりの一環とする必要があるということで、各自治会と、芹川を大事にしてきた環境団体3~4団体が集まってNPO法人芹川をつくってきました。

清掃が一番の目的ということで、地域の学生も入って清掃活動をしてきました。



その中でやはり次世代を担う子供たちに自然を受け継いでもらいたいということで、この一生懸命やって来られた方々が私たちに声をかけていただきまして、子供たちを育成する取り組みができないだろうか、ということで、放課後児童クラブをやっていた人たちが一緒に加わることになりました。

放課後児童クラブは5校でやらせていただいていた、250人の児童に来ていただいているわけですが、地域で遊んだ経験がない

とか、自然の中での遊び方を知らない子供たちが多かった。そこで、低学年の子供たちにまず自分が生まれた土地を好きになってもらう、生まれた地域を好きになってもらうということを大事にしたいということで、地域の人々とお話することや地域に出て遊んでもらうということを大切にしながら放課後児童クラブを進めてきました。

地域のお話を伝えたいということだったのですが、彦根は城下町だということでお話があまり残っていません。いろんな方々に聞いてみますと、彦根では絶対い

たであろう妖怪のお話はいくつかありまして、それを使って子供たちと一緒に夏休みに妖怪を探しに地域に出ていく活動をやっています。

芹川には河童はいないと専門家には言われたのですが、地域のおばあちゃんに「芹川で河童がいたのを見た」（会場 笑）とあっていただいて、河童がいるということで、河童から手紙が来て子供たちが地域へ探しに出ていくということになります。

意外なことに、地域に出ていくと、まったく関係のない地域の方々に「河童はどこにいますか」と子供たちが尋ねると「あっちで見た」「こっちで見た」（会場 笑）とのことでした。夏休みの最後には「河童を見た」という子供たちが続出し、妖怪を見た子供が出てきます。

去年は補助金をいただいたので、子供たちが触れ合ってきた妖怪を絵本にさせていただきました。その絵本を見ていただいた地域の方が、「あれはすごく良いお話だったけど、芹川の河童が赤く書いてあったけど、わしが見た河童は緑やった」（会場 笑）という方がいらっしゃって、赤・緑論争が起こりまして、地域の学童の子供たちは赤か緑かでもめています。

そういう触れ合いを通じて、私たちは子供たちを育成していきたいと考えています。

ありがとうございました。

-----

**福廣さん**：きっと本当にいてるんですね。そうでないとそんなにたくさんの方が見たといいませんから。僕も河童が大好きなのですが。さて、ご質問やご感想お願いします。どうぞ。

**朴さん**：私は変わっているかもしれないのですが、妖怪が大好きでして、彦根の妖怪は悪者なのですか、可愛いものなのですか。私たちの近いところにおいて、ふざけた遊びが好きなのですか。それと、赤か緑かという論争が起こっているとのことですが、両方あってもいいのではないのでしょうか。

**「芹川」さん**：何色でもいいのです。妖怪というのは、私たちはもともと昔話を語ったりとか、昔話を中心に活動してきました。

昔話というのは先祖からのメッセージでして、文字を持たない庶民のお話を伝承で伝えてきたということで、子供たちには先祖からの幸せになる知恵を昔話で伝えてきたいと考えています。できれば地域のお話を使いたいところなのですが、彦根では近年までお城の町でしたので、伝説は残っていても、昔話、「昔々あるところに」というのは残っていません。ただ、妖怪というのはなぜかお年寄りも子供も大好きで「見た」方が続出しております。

本当は絵本という形よりも、自分で思い描いて欲しかったので、何色でもよいのです。自分が赤色だと思えば赤色だし、緑だと思えば緑色です。今回は、滋賀県の河童は赤だと私は思っていたので、赤で描かせていただいたのですが、そういう思いがあるということと、伝承を通じて、人間に近いところで妖怪は生きて

きたと私は思っています。

河童は、どの川にもいて、水神様の使いだと言われておりまして、夏休みの終わりには、子供たちには「ちょっと怖いもの」から「自分たちを守ってくれるもの」に河童のイメージが変わってきます。

**朴さん**：妖怪図鑑はどこで買えるのですか。

**「芹川」さん**：かなりたくさん刷ったのですが、ほとんどなくなってしまいました。

**福廣さん**：僕も先ほど聞いたのですが、絶版とのこと。菊池さん、どうぞ。

**菊池さん**：学童の取り組みということで、3歳の子供を持つ親としてすごく興味を持って聞いていたのですが、現実的に「小1の壁」というものを痛感しておりまして、保育園は本当に手厚くみてもらえるのですけれども、小学校に入ると仕事はどうなるのだろうと今すでに考えているのですよね。

そういった中で、子供の感受性が豊かな時期にふるさとへの愛を育ててくれるこういった学童保育というものがぜひうちの近くにもあったらいいなと心から思いました。ぜひ頑張ってください。

**福廣さん**：はい、知事よろしくお願いします。

**嘉田知事**：妖怪でまちおこし、「妖怪地（ようかいち）」というのがありますけど（会場 笑）、いっぱいいるんです。ですから自信を持って進めていただきたいです。

1,000人の清掃グループが学童保育でこんな楽しい取り組みをされて、狂言もされていきましたよね。狂言は全国大会でも賞をもらっていましたが、ここまで来るかと本当に感心しています。ぜひ彦根りんごも含めて、色々な物語を発掘して子供に伝えてもらえたらと思います。ありがとうございました。

**福廣さん**：まだ時間がありますので、どうぞ。

**山道さん**：福岡で河童でまちづくりをされているのですが、その動機が、河童や妖怪がいる水辺がなくなっていったからなのです。それで河童を復活させようとしかけた男たちがいまして、河童の声を最後に聞いたおばあさんの話しを録音したり、色々な仕掛けをしたのです。「妖怪地」ではないけれど、まちづくりに有効だと思うし、子供たちにとっても風景が立体的かつ内容が濃いものとなるので、ぜひこれを真剣に流行らせて欲しいですね。伝説を作って、10年も言い続ければ確実に伝説になります。それを目指して頑張っていただければ良いと思います。

福岡には河童博物館があるのですが、「この間の洪水でうちで飼っていた河童がいなくなったから、琵琶湖で発見したら連れてきてくれ」なんてことになるといいですね。7色の河童がいて。（会場 笑）

**片寄さん**：河童は、Wikipediaでは「伝説上の動物、または未確認動物」と書かれていて、「色は赤または緑」となっていますね。

**「芹川」さん**：私は赤が主流だと思いますが。

**片寄さん**：彦根は赤河童らしいですね。

**福廣さん**：（会場に）どうぞ。

**松尾さん**：彦根に住んでおります松尾です。芹川で頑張っていた川づくりの会のメン

バーが、芹川を大事にして清掃もやってこられて、私も参加しました。NPO法人芹川さんは清掃だけでなく、スパイラルで変化させていく取り組みの広がりを感じております。私は犬上川の方で主にやっておりますけれども、NPO法人芹川さんが積み上げられて変化させて来られた取り組みを評価して欲しいと思います。

**福廣さん：**ありがとうございました。時間に余裕があると思っていましたが、河童につままれて時間がなくなりました。ありがとうございました。

いつもの山内エコクラブの子どもたち。よろしくお願いします。

児童クラブっていうのもはじめてのキーワードですね。多分。児童がでてきますよ。

-----

### ■C-3 山内エコクラブ

水と生き物と暮らしのかかわり方。山内エコクラブ。

(拍手)

こんにちは。山内エコクラブです。

今年は、野洲川の上流に住む私たちは、春から周囲にある田んぼに出向いて、生き物調査をしました。そこで田んぼの水はどこから来ているんだろうという疑問を持ちました。今年は田んぼに流れてくる水に着目して、県立大学の学生さんと一緒に水路調査をすることにしました。

県立大学の皆川先生に協力をもらって、三重県松坂の櫛田川付近に行きました。

そこは、水路についてあまり勉強していない私たちが、歩いてたどるにはいいところでした。



櫛田川頭首工からは、用水路、ポンプ場、給水栓、水尻、排水路、伊勢湾まで歩き、農業水利の仕組みを知りました。水路の水が流れる速さを調べました。

また、条里遺構の未整備水田地帯に行き、生き物を観察しました。

ここは、水路はコンクリートで整備されていないので、土手でできた水路

と田んぼを生き物が行き来してました。いた生き物はだるまカエルや、おたまじゃくし、ドジョウ、カワムツがいました。

山内では田んぼから、上に向かい、上へ上へ、用水路、排水路をたどっていくと、水を分け合うための水路があることがわかりました。道路の下をくぐっている水路、坂道を逆行している水路、ポンプを使わない自然の水路、井水のために岩に穴をあけて作られたマンボウ、長い水路を経て、野洲川の上流に向かいました。

坂は上り坂なのに水路は下っているのは、地面の下に傾斜のついた水路があり、

マンボウというトンネルをつくったりした知恵が昔の人にはあったことを教えてもらいました。

用水路には用排兼用の水路がありましたが、用排兼用水路の方が、高さが低いことから、生き物が行き来しやすいこと。

圃場整備されていない水路は、たくさんの生き物が行き来できることがわかりました。

高齢者からの聞き取りでは、水道がなかったときどうしていましたかと、80歳代の高齢者の方に聞きました。そこでは、井戸からの水をくみ上げたり、くみ上げからの水は、水かめに入れておいたことを聞きました。

また、山内には、黒滝という地区がありますが、そこには「お井戸」があることを聞き、最近やっと知ることができました。

昔は山からの生水が流れて、上から飲み水、野菜洗い水、おむつ洗い水と順番に水を使っていたようです。昔は村の人が集まって、野菜をリヤカーに乗せて、洗いに来たそうです。今でも近所の人使っていて、手を入れたら冬は暖かく、夏は冷たい水だったということです。水路の使い方では、みんなが譲り合っていました。時には争いもあったようです。

その様子を創作狂言にしました。

(狂言)

にんにん ぎらぎら ひでりがつつく

ぎんぎん ぎらぎら あめふらぬ

いやん まことに このごろは うちつついての ひでりだによって

田に水が少しものうて ほんと めいわく いたすことじゃ

いや わが 田へまいった

いや 田に水がすこしもない

あれは しもの村の田んぼじゃが さだめて しもの村びとが とったものであろう

よいよい こっちへとりかえそう

えい えい やっとな

やっとな やっとな

えい えい やっとな

やっとな やっとな

ざわ ざわ ざわざわざわざわ

がわ がわ がわがわがわがわ

今年は3月に山内春のふれあいコンサートでまた創作狂言をします。

今年の活動で分かったこととして、田んぼに必要な水は、川から流れてきて、水路で多くの田んぼに分かれていたこと。水路は譲り合い、分け合っていました。時には、けんかもあったけど、ひどいけんかではなかったこと。

井戸や井水を大切にされている文化があったこと。

圃場整備が進んでいない田んぼには、たくさんの生き物が行き来していました。

これからも山内の水をよりよくしていくために水を汚さない努力をしていきたいです。

これで山内エコクラブの発表を終わります。

-----

**福廣さん**：急いで発表ありがとう。

午前の役者は、間もなくあるコンサートの準備で、練習で帰ったようです。

あとは3人で頑張ってくれました。さあ、どなたか発言をお願いします。

**会場の方**：ありがとう。

朝の発表と比べたら、もっと自信を持って力強く発表してくれたと思う。

今日ね、皆さん方、関わってもらった中で、例えば、年寄から聞いたこととで、これは大事やとか、これはむっちゃ好きやなという場所とかね、そういうのあったら答えてほしいねんけどいける？

ここの、この場所はむっちゃ好きやで、自慢やでということとか、お年寄りから聞いたことで、これは大事にしなあかんでとか、あったら何でもええさかい言ってもらえたら、いける？

**「山内エコクラブ」さん**：先ほどのように、水を大切に、水がめにためておいたりなど、あまり水を使いすぎないようにしていこうということを知って、そこがすごいなと思いました。

昔の人が水を大切に使っていたことを知って、昔の人はすごいなと思いました。

今は水が普通に使える時代だけど、昔は水の争いがしょっちゅうあることがよくわかりました。

**福廣さん**：ありがとう。はい、朴さん。

**朴さん**：私は三重から来てるので、先ほど発表で、松坂市に行って、いろいろなことを調べましたということを知ってうれしかったですね。

皆さんは、**スーパーキッズ**だと私は思っているんです。

そして、今年ね、11月の10日から12日まで、国連のユネスコという、みなさんを教えたり、文化を奨励したり、そういう国際機関があるんだけど、愛知・名古屋で世界の会議が開催されるんですよ。

三重大学はそれに合わせてESD いいね三重2014というのを企画してるんですけど、招聘したら来てくれますか？

(会場 笑)(拍手)

大人にはチャンスくれないんですけども、子供にはくれるので、ぜひとも世界の前で、発表していただけますか？

やりましょう！（笑）じゃあ、今から練習しましょうね。招聘しますよ。

**「山内エコクラブ」さん**：行けたら行きたいと思います。

（会場 笑）（拍手）

**福廣さん**：特別賞ですね。

**嘉田知事**：はい、じゃあ、コメントを。

今日、環境政策課の方、来てる？

今、議会に出している予算の中に、ESD 参加費の予算化をしています。（笑）

議会で認めていただいたら、行ってもらえるかなと。

**朴さん**：滋賀県先、三重県後、滋賀プラス三重の合同で ESD ということでよろしいでしょうか？

**嘉田知事**：ESD は Education for Sustainable Development で、さっきの渋川、Education for 渋川なんだっけ？

**「渋川委員会」さん**：「大好き」

**嘉田知事**：あ、渋川大好き（SD）

そういう ESD もありますので。（笑）

いろんな ESD、今日ヒントをもらっています。

できるだけ有効に使ってもらえるように、ESD の参加費を予算化しましょうね。

**朴さん**：そしたら、三重とか名古屋に来るときは、嘉田知事のところでだして、帰りは三重がだと、そういう感じで一緒に手を組んでやっていけたらいいなと思いますけれどもよろしくお願いします。（会場 拍手）

**福廣さん**：すごいことが決まってしまいましたね。

ところで、「お井戸」っていいですかね？あれ、井戸のことではなくて。

**嘉田知事**：滋賀県内の湧き水は「井戸」というのが多いのです、ローカルな名前では。

井戸というのはよく一般的にはですね、深く掘る「掘り井戸」のことをいうんですけども、ああいう風に湧いてくる湧き水も、生水とか湧き水、池とかもいます。

地域によって名前が違います。これは私が琵琶湖博物館時代に調べた調査結果ですけど。

ですから「お井戸」というのも、ごく自然な地域のローカル単語です。それも地域地域で違います。

**福廣さん**：松坂で調べたからということではなくて。

**嘉田知事**：字ごとに違います。

それぐらいローカルな言い方ですね。それだけ地域に根差している言い方だと思います。

**福廣さん**：それからもう一つ、マンボウというのは？

**嘉田知事**：マンボウはね、横穴トンネルです。

**福廣さん**：それは全国的に言うんですか？

**嘉田知事**：これはね、不思議なんです。

実は、砂漠の南、イラン・イラクもマンボウなんです。

で、もしかしたら、何かあるんじゃないのかと東大の小堀さんが研究しています。で、マンボウは横穴トンネル、これ結構、このあたりで一般的に。

例えば草津の駅の横に、草津川の下を通る道がありますね、あれもマンボウと  
いいますね。これはこれで、また一大テーマになりますね。

**朴さん**：三重県でも四日市あたりでは、マンボウといいます。

**嘉田知事**：道路のトンネルもあるし、水を引いてくる山のところに横穴トンネルを入れて、水をひくのもマンボウです。

**朴さん**：それから、「かまと」という言葉もなぜか日本ではマンボウ。

**嘉田知事**：みなさんがゆくゆくいろいろ研究をできるテーマがあると思います。

圃場整備したところと、圃場整備しないところ、あの魚がいたりきたりできる。これが、実は魚のゆりかごのポイントで、ちゃんと絵に描いてくれているというのがすごいですね。

今から発見しているので、農業土木の技術者にいつでもなってもらえるかなと思います。

**福廣さん**：知事ありがとうございました。河童と知事は時間をとるといふ。(笑)

はい、山内エコクラブのみなさんでした。ありがとう。すごい賞をもらいながら帰ります。

C-4、水土里を守る新旭地区、よろしくお願いします。

-----

#### ■C-4 水土里を守る新旭地区

私、滋賀県は高島市の方から寄せていただきました。先ほどからカバタとか湧き水とか、そういうところの地域です。その中で、農村まるごとっていう事業を  
させていただいています。

ただ、あまりしゃべりすぎますと本題のことがしゃべれないので、今回はちょっと短めにさせていただきます。

実は滋賀県で780程の組織が、この田んぼの畔草刈であるとか、農道の草刈、溝の泥上げ、まあそういうようなことを基礎活動として  
頑張っているんです。

それは滋賀県780言いますが、田んぼの面積にしますと、5万ヘクタールの田んぼがあるんです  
ね。

その中の3分の2の田んぼをこういうような形で管理をみんなが頑張っているんです。というような事業がい



ま進んでいます。で、その中で、別のメニューとして、琵琶湖の水質を保全するために、水質、これ透視度調査と言いまして、子供が一生懸命測っているんですね。ほで、この結果を見て、おじいちゃん、ちょっと川が汚れてきたし、あんまり流したらあかんのちゃうか、みたいなことで、孫とかですね、注意をうける。まあそういうふうなところもあります。

また、私のところは観察会などもやらせていただいているということです。

最後にこれ、老人クラブの人がですね、わしらあんまり草刈できひんし、農道の横のごみ拾いをしようかというようなことでやっていただいています。

その活動の中で、わたくしとこの新旭地域は、どんなことやってるんやとゆうことで、特別にやっているようなことをちょっと説明をしたいと思います。

まず、一つ目が、琵琶湖を汚さないように農家も頑張っていますということで、節水活動、次が観察会はわくわくがいっぱいということで観察会の様子、最後にコイ、フナが田んぼに遡上してあがるということで、その部分の取り組みも始めましたので、最後時間が余りましたら、少し説明したいと思います。

次ぎに、これ一番大事なところで、説明ほんまにしたかったことがここです。

琵琶湖の周辺に田んぼがありますよと、その田んぼでお米を収穫するために、田植をします。で、代掻きをして田植をして、最後、水管理をしながら、最後、刈取りをするというようなことです。その中で、やはり水管理ということをしなす。

それは水守当番が今、私とこでは、専任がありまして、当番になった人が見回りして、田んぼの排水口から水が出ていると、ほら、もったいないな、これもったいないし、「おーい締めてくれよ」言うて、田んぼの向こう側にいる農道側の人に言うて蛇口をしめる。そういうような活動を始めてもらうようになりました。

これが平成 20 年からとってるデータですけども、もともと基準年が平成 16 年から 18 年、3 年間の平均でとります。で、その時に水の量、使っていた水の量が、これ 1800 回、で、1 m80 cm の高さの水がお米を作るときには必要やゆう風に今までは言われていました。で、それにプラス雨が上に乗っかってくるんですね。そんだけの水をつかっていたんですけど、わしらやっぱり節水せなあかんなというようなことで、農家の人も、農家の人忘れていたときは、犬の散歩いったときに、そこの犬の飼い主らがきばって、これもったいないなという感じで蛇口をしめてくれる。まあ、そういうことができるようになりまして、ここのオレンジ色の部分、まあ年によって違いますけども、節水ができた。で、節水するということは、この分が琵琶湖へ流さなくても済んだということです。で、その量たるや、ここでいいますと全体の 25% に匹敵するんです。で、25% が節水できてる。これが一番すごいなと思って、自画自賛ですがやっています。それでだいたい 6 年間で、60 トンの水が、泥がですね、直接琵琶湖へ行かなくなった、それがすごいゆうことです。

農家の方には、あんたら頑張ったおかげで基準年やったら 1700 円お金をもら

うところやけど、1260 円、440 円財布にやさしかったんやで、それが一番言いたかったことでございます。

で、次、あっ、終わり。あー。(会場 笑)

そしたらこれで失礼します。ありがとうございました。

-----

**福廣さん**：ごめんなさいね。それじゃ、あの急いで報告してもらいましたんで、質問の方も急いででよろしくをお願いします。

じゃ、嘉田さんお願いします。

**嘉田知事**：ちょっとしゃべりすぎですが、この節水、琵琶湖からくみ上げた逆水の水を節水をする、ほんとお財布にやさしいだけではなくて、琵琶湖にやさしいということ。

どこもできるんですけど、やっているところがほんどこだけなんです。

ほかのところも一部やってるんですけど、とにかく新旭のところが先駆的にやっていますので、もし今日、農業関係の方、堀さんとかおられますよね。

あの、用水路の経路で水を測る場所は部分部分しかないんです。本当は、一枚一枚に水量のメーターを家庭のようにつけるともっと節水できるんですけど、それをたぶんやると農家から大反発を受けるだろうから、わたしは言いながらやれてないんですけど、ともかくこれができるというのはすごい土地改良区の努力で、まあ、これをメインでやってこられたというのが、本当に他のところでもぜひ真似てほしいと思っております。ありがとうございました。

**「新旭地区」さん**：集落で競争しながら節水やってるんです。ですので、これ、すごく達成ができてるかなという感じですね。

**嘉田知事**：集落別にデータを出すんですね。

**「新旭地区」さん**：そうです。それでお金の徴収もしますよと言ってます。「なんでわしのとこ、単価高いんや」と、「あんたらだしすぎちゃいまっか」というとそれで節水ができていきますね。

**福廣さん**：競争は嫌いやけど、節水の競争やったらいいですね。すごいですね。

いかがですか？はい、さとうさん。

**さとうさん**：最初の発表を聞かせていただいて、その時もしゃべり足りないって言われて、今回もちょっとしゃべり足りないみたいな。

パワフルで楽しく聞かせていただいたんですけども、今、地区で競争されているというふうなお話もあったんですけど、どういう風な組織でされてるのかというのがちょっとわからなかったのので教えていただけますでしょうか？

**「新旭地区」さん**：えっと、わたしのとこの水土里を守る会新旭地区というのは、全部で 10 集落のかたまり、自治会が 10 個集まって、それぞれ田んぼがあるんですね。

そこで琵琶湖からどんだけ水をくみ上げたか、で、くみ上げた水はそれぞれ分水工ということで分けたところに量水器というのがついています。そこで水量の

メーターがあって、そこでどんだけその地域に水がいったかというようなことが測れるようになっています。

そういう意味で各地域、田んぼが大きいところは、当然たくさん使いますが、お使いになられる水田がどれだけあるかということ、それを測りなおしますので、10アールあたりの水の量が変わっていく、というようなことです。

**さとうさん**：組織としては、農家の方というよりは自治会の方でされてるんですか？

**「新旭地区」さん**：そうです。あの、農家だけではとてもできないです。

ご理解いただくためには、自治会の構成員である非農家の方がいかに協力していただいて、ここの自然を守る、景観を守るためには、やっぱり田んぼが草ぼーぼーやったら、みんないやになるよね、自分の住んでる環境をよくするためにということで、進んでやっていただいているということですね。

**会場の方**：伝承されてきた教訓を取り入れて活動されていることがあれば教えてほしい。地域でいろいろ活動をやられてきたなかで、これえーなとか、これちょっと取り入れてとかいうようなことがあったらちょっと教えてほしいです。

**「新旭地区」さん**：はい、まさしくうれしい質問でした。

わたくしところは琵琶湖から近いところに田んぼがあるんですね。

そこに琵琶湖と田んぼを結び連絡協議会というのを作りまして、国交省とか水資源機構とか高島市役所とかそういうところと連携して、琵琶湖と先ほどありましたように、整備があんまりされてない水路と田んぼの差があんまりないところで、休耕田を利用して生き物観察会をやりました。そこで絶滅危惧種が見つかった。そういうこともありまして、今、一生懸命その保全にも頑張ってます。

**福廣さん**：ありがとうございました。時間厳しいんで申し訳ございません。

ありがとうございました。いよいよ、最後の高時川です。よろしく願います。

-----

## ■ C-5 高時川源流の森と文化を継承する会

高時川源流の森と文化を継承する会の活動報告をさせていただきます。

今日発表させていただきますのは、高時川源流で生まれ育って自然とともに暮らしを支えてきた会員でございます。

琵琶湖淀川流域の最北端の水源の森と文化を保全する活動でございます。

そこには、ブナを中心とする広葉樹林が県内最大規模に広がっておりまして、源流の最初の一滴をつくっております。このような森が、広大に、水源に広がっていると。森の下には、このようにユキツバキのような貴重な植物がたくさん生えている場所です。

この高時川源流というのは、白神山地からつづくブナ林が連続する西南端にあたりまして、広葉樹林を暮らしに活かしていく東北北陸の流れをくむ文化で、西日本とは一線を画す文化となっている地域でございます。

このような中で、高齢化によって、あと、ダム問題による移転によりまして、森林保全管理、文化の継承が難しくなる状況の中で、水源の集落の方が集まって、文化と森を継承するという事で買いが設立されました。

大きな目的としては、源流の自然に育まれてきた文化を継承することによって、水源の森や自然を守ることに繋がるといふ考え方のもとで活動しております。

巨木の保全活動ということで、トチやブナの巨木を、道のない溪谷を探索しまして、1本1本調査をして、120本、24日間の調査をしてまいったところです。

それとともに、文化の継承活動ということで、トチの実の皮はぎですとか、広葉樹林を活用したトチの文化がございます。

ちょっとだけ実演します。

(トチの実の皮はぎ実演)

これがトチの実なんですけれども、これをですね、ここに座って、沸騰したお湯をぶっかけますと、トチの実の皮が軟らかくなったら、この機械で、間にはさんで皮をむくのが、これが昔からの道具で、トチの皮剥ぎ機です。

このような道具を使って、余呉のトチの実からトチモチをつくる活動を再現しました。

それと、伝統的な小屋づくりを再現しました。昔ながらの小屋には、掘立小屋とマタグリ小屋があります。今回、掘立小屋を再現しました。

マタグリ小屋ですが、同じようにカヤで囲いをするのですが、骨組みについては、今の農業用のビニールハウスを想像していただければと思います。

6本の柱からなるんですけども、柱は地中70センチほど埋め込んでおります。釘や針金等の金属類を全く使わない手法ということで、本来なら蔓を使用するんですけども、小屋の材料探しもなかなか大変だったんですけど、蔓探しもなかなか大変で、今回は藁縄を使用しております。

あとこれで、カヤで、屋根の部分と囲いの部分をして完成です。今年は中の囲炉裏を再現しまして、小屋のすぐ前に高時川が流れておりますから、アユをとって焼きまして、昔をしのびながらみんなで食べたいと思っています。

今後の活動といたしまして、千年以上続いているこの山奥の住民が、草や木の実を食べ、何百種類の薬草を食べて健康を守って、今後もこの文化を継承していきたいと思っております。

木の大切さや水の大切さや、薬草薬木の大切さ、人の自然を大切にすることを大切に継承していきたいと思っております。

これで発表を終わらせていただきます。

\*\*\*\*\*  
**福廣さん**：ありがとうございました。さて、どなたか。こんなすごいもん見せてもろ



たら、質問も無いっちゃう感じですけども。

**さとうさん**：ダム移転の話があったので、どれくらいの規模かっているお話をお聞きしたいなって思ったんです。私も、日吉ダムの、水没した 120 戸の集落の記憶を残すということを 10 年ほどやっておりまして、ダムによって受けるダメージというか、そういうのを違った形で、文化という形で残していくってことをやっています、それで気になったので、お聞きしたなと思いました。

**「高時川源流の森と文化を継承する会」さん（以下「高時川」さん）**：ダムの話ができましたのは、昭和 36 年のことでした。それからダムの工事に入るかと思われたんですけども、今年の 1 月に、完全に中止となってしまいました。

その 40 年、50 年近くの間、山は荒れ地になりまして、猪やとか熊やとか、そういうもので荒れ放題になってしまっていて、この美しい山、美しい水が出ている、大切な木もたくさんあるし、そのために、森と文化を継承する会を設立したわけです。

**福廣さん**：さっき会長さん、水と木とおっしゃいましたけれど、漢字もよう似てますね。同じ根源かもしれん。

**会場から**：さっきの小屋づくりでも、その結び方も特色あると思いますね。子どもさんなんか、それちょいちょい見てはりますか？

もしね、私の希望もあるんですけど、子どもたちがそういうの見てるとか、行事、トチモチなんか作るのでも、子どもさんらが見て、うわっとびっくりするような時も時々あると思うんですけど、そういうことを取り入れて、その解釈を書くとか、そういうことができれば、文化を継承していく中で、子供の感性に伝えるというやりとり、キャッチボールが大事なかなと思うんですけど。

**「高時川」さん**：この小屋づくりに、うちの子どもも参加させていただきまして、10 月 16 日に、青少年の主張コンクールで、うちの娘が発表させていただきまして、小屋づくりとか、田んぼ、もちつきとか、こういうのを体験したということで、発表の場をこどもには体験させていただいています。

**山道さん**：東京の多摩川の源流で、源流大学っていうのをつくったんです。そのときに、なにがあるかっていう話の中で、いろいろ森林の問題もあったんですが、今日は医療とか健康の話とか、私の一身の問題もあるんですが、山の中、森のホスピタルというか、東京のおじさんおばさんたちが 1 k g 体重を減らすのにどれだけ投資しているか(会場 笑)ということを考えるとですね、山の生活を一か月間やると、水も食べ物もそして下草ガリなんかを健康のためにやると、えらい効果が高いんじゃないかってことで、そういうホスピタルをつくったらどうかと。

一週間、合宿するわけですね。森林施業にもなるし。そういう話でやったらどうかと言ったら、誰もってこなかったんですよ(会場 笑い)。

みなさん、さっきトチモチの話だとか、森の生活の話をされたんだけど、可能性としては十分あるとおもいますよ。そこらへんで思いがあれば、きかせてもらいたい。

**「高時川」さん**：そういう話は大変貴重な話で、僕らの村の内容のことはあまり（他の人は）知らないわけなんです。もし知っとる人があれば、田舎暮らしもええなあ、と思うことがたくさんあります。少しぐらい風邪ひいたって、この薬草飲んだらよくなるし、完全な病気になればお医者へいくのはあたりまえやけど、それまでの健康管理は薬草やとか薬木やとか、そういうものをちょっと使えば治るような、そういう素晴らしいこともある。ほういうような田舎の生活を知らない人が、じっくり入ってきてもらおうと、その良さがわかると思う。

**山道さん**：そうですね。ありがとうございます。

**福廣さん**：ありがとうございます。最後に素晴らしい宝の話聞いて…ということで、・・・(知事をみて) あ、はい。

**嘉田知事**：いいですか、時間がなくて。1分で。

昭和 36 年からはじまった丹生ダムは、下流の、京都・大阪・兵庫の皆さんの利水目的でした。それが平成 17 年に利水はいらぬということ、それまでに引っ越しをしていました 7 集落 40 戸、今回のみなさんは村を移転して下流におられるみなさんです。

1 億 5 千万トンのダムが、西日本最大級のダムが、近畿地方整備局の方で、ダム建設は有利ではないということで、1 月 16 日に中止がほぼ決定されました。

下流のためにと、苦渋の決断で村を捨てられたみなさんなんです。そのみなさんが今、こうして自分たちの森の暮らしを再現しようということ、がんばっていただいているのが、今日のこの発表ということです。

400ヘクタール国の土地があります。ダム水没予定地です。その周辺には、みんなの元の村、元の山があります。そして道路は荒れ放題、全く手が入っておりません。

近畿の水源地域です。下流の皆さんのためにとということで引っ越しをしたみなさんが、この後、元気に、森を、地域を再生できるように、ぜひともお願いをしたいと。

県ももちろん責任があります。そして長浜市とともに、下流の皆さんにも応援をしていただきたいということで、下流の知事の皆さんにも申し上げております。

そういうことで、今日は、特別に私の方からも、水源地域を守っておられる皆さんの応援をお願いしたいと思います。

特別なメッセージですけれども。（「高時川」さんに向かって）どうも今日はありがとうございました。

## 最終選考

**山道さん**：じゃあ、短時間でキーワード紹介いたします。

えーと、最初はですね、A-1 白鳥川。川が我々にとってはなくてはならない存在であればですね、みな大事にするだろうということもあまして、今日は健康とか病院とか、私の年齢もありますけれど(笑、)ものすごく興味があまして、「川

の病院プロジェクト」、ぜひ本格的にやっていただきたいなと、思うんですね。「川の病院」です。「川と病院」でもいいんですけど。

あとで、森の病院もあります。なんか、やたら病院づくしでありますけれど。そういう思いを込めてですね、こういうキーワードを出しました。

2番目はA3ですが、これは例の記憶の絵図。「記憶から記録へ、そしてふるさとづくりへ!」。記憶を絵図にとどめるだけではなくしてですね、きちっと記録もして、次のまちづくり、地域づくりに役立てる、あるいは、市民と行政のビジョンを共有するような材料に使っていただけるといいかな、と思います。

むかし、天竜川ですね、国交省が「思い出を分けてください」、っていうプロジェクトをやっていたんです。でね、古い写真集を作ったんです。なにをするかという、その写真集で昔の原風景を再現してみよう、というような試みにつながっていったこともありますので、ぜひそこを。

で、A5。「米だけではなくおいしいゆりかご水田」。水田も豊かな場所であろうかと思います。魚まで上げてくる。ここはフナずしのご当地なのでね。ぜひ、安くておいしいフナずしを作ってくださいことも含めてですね、そこらへんにぜひ着眼をして、活動していただきたい。お米でだけではなく、他にもいっぱいおいしいものがあるはずだということですね、みなさんにしていただきたいと思います。

それからBの3。「じいちゃんばあちゃん技術はエコ技術」ということで、おじいさんおばあさんの技術、それからお百姓さんの技術は、ほんとにこれはエコだろうと思います。これをぜひ若い子ども達に、少々のことは手作りで自分でできるんだということをお教えていただいて、技術を教えていただく。そうすると、すばらしく、豊かでいい生活になっていくんじゃないかなと思います。

これはおなじように長浜市(杉野地域づくり協議会)もそうですが、「手作りの伝承」、手作り技術っていうものをぜひ教えていただきたいな、伝承していただきたいなと思います。

それから、Bの5、市民自然観察会。市民調査はですね、学者がやるとか行政がやるとかとは違う視点で、市民がやるって所に特徴があると思うんですけど、これは一番大きなのは継続していくってところだと思います。継続した調査データと言うのは、本当にものすごく重要なんですね。「市民調査研究の底力」というキーワードを出しました。ぜひこういうものを、色々な形でつなげていってもらえればと思います。

これは河童の妖怪の話(NPO 芹川)。「現代の伝説づくり」、ということでもあります。過去のものを探るんじゃなくて、これからの物語とか伝説をぜひ作っていただければと思います。子どもたちに対する、たとえば川遊びのマナーとかですね、ルールですとか、そういうものを教えるのに役立つわけですので、そういう意味での妖怪の研究とかですね、現代の伝承づくり、伝説づくりをぜひ続けてやっていただければいいのかなと思います。

Cの3。山内エコクラブ。これは「水の物語をつくる」ということでもあります

けれど、子どもたちが演技をしていく。あるいは、伝統的な芸術だとか芸能だとかっていうものを、水の物語を作るっていうことで続けていっていただければいいなと思います。いろんな角度で調査をやっているというのは、本当に、ここのエコクラブは長い歴史を持っていますのでさらに磨きをかけていただければいいかなと。

Cの4。水土里を守る会。これはまさに琵琶湖を「マザーレイク」ときちんとして位置付けて、そこから恵みをいただく、みたいな発想だろうと思います。これが湖を守ることに繋がっていくのかなということで、ぜひこれは広めていただきたいとおもいます。

Cの5（高時川源流の森と文化を伝承する会）。「森の恵み」。これは先ほど申し上げました、森というのは本当に豊かで、健康的で、ということだろうと思います。ぜひ、トチモチもいいたろうと思いますけれど、森全体の豊かな恵みを、われわれの健康だとか、そういうものに役立てるような、立体的な仕掛け・仕組みができるといいな、と期待を込めて、このキーワードであります。以上です。

**福廣さん**：ありがとうございました。さすがのキーワードを出していただきました。

東京は山道さんに全然コメントさせてないというのが惜しいですね。こんないっぱいしゃべってもらえるのに。

菊池さん、急がして申し訳ないけれど、おねがいします。

**菊池さん**：一人で2分と言われたので早口で行きたいと思います。

白鳥川さんなんですけれども、「**”役割””誇り””楽しみ”をともに**」と書きました。苦しいことだけでなく楽しみを皆さんで、ということで印象に残りました。

それから渋川の方なんですけれども、「**”文化と命が共鳴する”**」ということと「**”変わるもの”の中にある”変わらないもの”**」というメッセージを残しました。

それからせせらぎの郷さんなんですけれども、「**知恵を集めて活動と地域をそだてる**」。

それから守山市の勝部の方なんですけれども、さきほど言った「**双方向性のまなざしの近さ**」それから「**”生きる力”あふれる自治会**」と書きました。

それから、小水力の方は、「**他地域への”モデル”として完成に期待**」。

市民自然観察会は、冊子の方の最後に書いてあるコメントに、牛ガエルの鳴き声を聞いた、とか、本当にちょっとしたことがたくさん書いてあって、こういったことがすごく大事なものだと感じましたので、「**”感性”の蓄積データの重要性**」と書きました。

それから、学童の話は、率直に「**こういう学童がほしい！！**」と書きました。

山内エコクラブさんなんですけれども、「**好奇心**」と書きました。色んな事が、無関心の中で失われていっている中で、ちょっとした好奇心を持ってもらうことで色んなものが生きてくるということが印象に残りました。

それから、水土里ネットさんなんですけれども、「**やればできる**」と書きました。やらなきゃいけないと思ってもやれないのではなくて、本当にやろうとおもえば

結構できるということを証明してくださっている気がします。

それから最後なんです、高時川には、「**生き続ける**」というキーワードを残しました。町としては早い時期に棄村されたということですがけれども、そこに生きる方たちが今もおられ、文化も生きていらっしゃる、それから自然も、本当に緑の風景を見て涙が出るほど感激したんですけれども、ああいった風景が滋賀の中に生きている、生き続けているということが非常に印象に残りました。

**福廣さん**：菊池さん、ありがとうございました。つづいて、さとうひさ彥さんをお願いします。

**さとうさん**：それでは反対から。フセンを貼りながら行きます。

C5の高時川の源流の森と文化を継承する会は、継承する会そのもので「**伝える**」ってということがどんなに大切で、また、困難なことなのかということも含めて、「**伝える**」ってということが大事だなと思いました。いろいろ工夫の仕方もあると思います。

水土里を守る新旭地区のほうには、「**節水でつなぐ**」っていうキーワードにしました。「**節水でつなぐ**」ってあんまり聞いたことがないので、本当に節水がつないでいるというのが本当に面白いなと思います。

山内エコクラブの皆さんには、「**歩く**」ってということがすごく印象的だったので。狂言されていても、声を出すとかが、体で表現するっていうことをされていて、それがすごく印象的だったので、「**歩く**」というキーワードにしました。

えっと、河童（NPO 芹川）ですよね。「**見えないものの力を借りる**」というキーワードにしました。

市民自然観察会さんは、最後に言われていた「**自然からいただく**」という言葉が非常に印象的で、観察というものとは違う、感性の部分も感じる言葉だったので、キーワードにさせていただきました。

長浜市さんの水車ですね。水車がこれから色んな物のシンボルになっていくだろうということで「**シンボル**」っていうキーワードにしました。

勝部自治会さんで印象的だったのは、とにかく「**自分で作る、自分で直す**」ってということがキーワードかなとおもって、作ったら直すこともできる、ってことが印象的だなあとと思いました。

すいません、せせらぎの郷さんはキーワード制作が間に合いませんでした。

渋川の生き物絵図作成支援委員会さんは、私は「**見る力**」としまして、さきほどの「見えない力」と「見る力」というのが、ふたつ、子どもが関わったもので印象的で、この絵図と言うのは見る力を信じているのだなと思いました。

また、見えるものだけじゃ生きていけなくて、文化には見えないものもあるっていう、自分の子供時代を振り返っても、見るものと見えないものの両方の力っていうものを感じながら生きていくんだな、と、なにか自然と人間と文化と、みたいなことを改めて、この二つを比較することで考えさせられました。

白鳥川の景観を良くする会さんもものすごく悩んで、この会は去年も見させて

もらってテーブル・コーディネーターもさせていただいたんですが、他の会にな  
い何かって何なんだろうとすごく思っていたんですけど、「美学」があるんじゃ  
ないかと思うんですよ。

**片寄さん**：お！？

**さとうさん**：なんというか、一つ一つのグラフにチャートするとか、灯籠にしても、す  
ごく徹底してやらはるんですよ。そこに、私は、白鳥川さんの活動には、白鳥  
川という美しい名称にふさわしく、すごく「美学」を感じたんだなということに、  
それに今日気付きました。以上です。

**福廣さん**：ありがとうございます。さとうひさえさんはブルーのフセンです。

**朴さん**：わたしは黄色のフセンであります。最初、白鳥川さんには「AKT48」、期待  
したいと思います。たのしく、それから子どもも健康も環境も安全も守りながら  
やっていきましょうということになります。

渋川は、「生き物文化誌」あるいは生き物を愛する図「愛図」というキーワード  
を作ってみました。

それからせせらぎの里に関しては、「自然の恵み ゆりかご米」をぜひとも作っ  
てくださいね、という意味を込めました。

守山市勝部の皆さんは、カタカナが好きなのかなーと思って、ちょっと英語で  
書いてみたんだけど、意味があんまり通らなかったから、そのまま「トレジ  
ャー」、宝物ですよ。それから「ハンティング」、これはね、普通は決闘すると  
か獲るとか、けっこう過激と思ったら最後に「チャレンジ」と書いてあるのでさ  
すがだなと思いました。

長浜市は手作りらせん水車は「防災の灯」、防災のひかりになるだろう、と。こ  
れはちょっと頑張っていたきたいなと思います。

市民自然観察会は、「市民力・地域力・研究力」。これは大学にいるものとして  
頭が上がりません。頭が下がります。

芹川は、「彦根の妖怪は人が好き？」かな〜、というふうにしました。私、この  
本ぜひとも欲しい。また沢山作ってくださいね。

山内エコクラブはもういうことありません。「Super Kids!」。はい。

水土里を守る会は、「みんなの力で田んぼの節水10%」。私、もともと理系の  
人間がなぜか間違っ文系にきてモヤモヤするんですが、初めて数値が出てきて  
うれしかったんで。10%。1割ってたいへんなんですよ。たかが1割だけれど、  
されど1割でありまして、これはこれからどんどんいきますね。1年で10トン  
減らすというのは並大抵ではないと思いますけれど。最終発表の時に数値が出て  
よかったなと思ったんですが、テーブル選考の時からそれを言ってよ、と。

最後に高時川、「森と文化の継承」、やはり伝えていかなければならないので、  
世代間交流として、子ども必要だけれども年寄りも捨てたものではないのです、  
ということをお願いしたかったんですよ。以上です。

**福廣さん**：時間短縮にご協力ありがとうございました。

片寄先生、おねがいします。

**片寄さん**：キーワード紹介、みっつだけ、失礼します。

白鳥川。「**体調の悪い人ほどこき使え**」。これはびっくりしました。

勝部自治会。「**ちょっとからはじまる**」。これはねえ、泣かせますねえ。これは北浜の、とにかくちょっとやってみよう、この怪しげな動きが地球を動かしていくと感じました。

**福廣さん**：ちょっとからもっとへ。

**片寄さん**：それから、自然観察会。これはすごい指摘でしたね。「**完璧な図鑑はない**」（会場 拍手）。これはすごかったですよ。これは、私も研究者の一人として、いやーやるなあ、と。これは本当だと思います。完璧な図鑑は私の歩く後ろにできる、とこういうかんじですね。

**福廣さん**：ありがとうございました。

それでは知事よろしくおねがいします。

**嘉田知事**：何分でしたっけ。

**福廣さん**：・・・短く。

**嘉田知事**：短く。白鳥川は「**健康寿命**」。実は滋賀県、健康寿命、女性は47位です。女性をもっと巻き込んでください、白鳥川に。

なぜ「**美学**」といわれたのか。本当に美しいんですね、白鳥川の活動。これはやはり、日本の企業のバックの中で培われてきたシステム思考と、それで愛情と。パナソニック（元職員）に隠された「**システムと愛情**」。（会場 笑い）「**健康寿命**」・・・どうも解釈しすぎかもしれませんが、感心しています。

記録から記憶に、という心象絵図を生きものでしていただいたということで、環境というのは、どうしても「まわり」ですから、なかなか自分の問題にならない。それを「**自分化**」した、「**自分事**」にした、そして「**好きになること**」という、キーワードをきちんと実践して下さったのがすごいです。

須原せせらぎの郷は「**命のつながり**」、魚の命だけではなくて、人の命がつながる。おじいちゃんから子どもへという命のつながり。

えー、勝部。私女性のことを聞きましたけれど、本当に日本の自治会です。滋賀県の自治会、3300のうちに、自治会長は女性100ぐらいしかいないんです。ですから、女性消防がある。そして今日も発表が見事でしたね。「**多世代まるごと女性消防**」、大いに期待しています。

杉野（地域づくり協議会）の、山の中で「**近いエネルギー・みんなのエネルギー**」は、実はお金になります。これから農山漁村が稼ぐのは、米や農産物だけではなくてエネルギーだということで、ぜひエネルギーで稼いでいただきたいと思っています。

市民自然観察会、「**市民調査 研究の底力**」、西の湖でやっていただいた西崎さんが、知る喜びとっていただいた、これが原点ですね。今日、琵琶湖博物館関連でも発表され、学芸員も来て下さっていますけれど、琵琶湖博物館の一つの目

的は、市民研究が元気になることですから、この原点、知る喜びを西崎さんに教えていただいたなと思います。

芹川はですね、やっぱり彦根では赤ガツパですよ。「赤ぞなえ」！(笑) 3/8、忘れないでください、赤い学ランの映画が始まります。「偉大なるしゅららぼん」、これも彦根城が出てきます。「彦根では赤」です。赤。

山内エコクラブさん。もうねえ、ここは実績があります。スーパーキッズ。そして水争いを見える化しているのが狂言ってね、これも見事ですね。屏風をつくったり狂言にしたり、こういう表現をするのが山内さんのすごいところ。「水争いの見える化狂言」。

新旭。「節水はびわことサイフにお得」。得にならな、皆んなやらへんのです。ですから、まず得を、上原さん、400円儲かるんのですということをみんなに言うていただいて、滋賀県中に広めていただきたい、特に逆水灌漑のところですね、電気代も高くなっているし、節水をお願いしたいと思います。

そして最後に、きわめて政策的に、政治的に、「関西の水源の森と文化を守る応援を」、下流のみなさんから、ぜひ。丹生ダムの建設予定地の地域の再生に、そして、子供さんに次の文化を伝えるために、応援をお願いしたいと思います。ありがとうございました。以上です。

**福廣さん**：ありがとうございました。今日の知事の洋服を見てください。青い琵琶湖ですね。ありがとうございました。

それではみなさん。一気に、三票ずつ投票してください。

素晴らしいキーワードをいただいたんで、事務局はきちっと保存してくださいね。

投票は三票。一発勝負！

(選考員の声「うわあ・・・」「おう・・・」「最初に貼るのがいやね・・・」)

**福廣さん**：みんな貼っていただけましたか？事務局、数えてください。

**事務局**：A1白鳥川の景観を良くする会、1票です。

渋川生き物絵図。3票。

せせらぎの郷は、残念ながら0ですね。

守山市勝部自治会。0です。

近いエネルギー（杉野地域づくり協議会）。2票。

市民自然観察会。2票。

NPO 芹川。赤ガツパは4票です。河童4票です。

山内エコクラブさんが、1票です。

節水の取り組み、水土里を守る新旭地区が2票です。

高時川の源流の森と文化を継承する会、が6票です。

よろしいでしょうか。

**福廣さん**：時間が無いからということでもあるんですけども、去年は上位いくつかでもう一回議論しようか、といったら朴先生に怒られまして。真剣にみんなきち

っと投票したんやからひっくりかえしたらあかん、と。

進行役の僕で独断させていただきまして、票数の大きいほうから順序で決めさせていただきたいと思います。・・・ということを用いて、どれが多いんですかね？

Cの5、高時川源流の森と文化を継承する会。1番多い6票ですね（拍手）

その次が、芹川が4票ですね。

その次は、渋川の絵図が3票。1，2，3とこういう面子が選ばれました。本来は、グランプリが1つで準グランプリ1つという選び方をさせてもらっているんですよ、実行委員長。やけども、去年もそうなんで、グランプリ1つで準グランプリ2つという選びかたでいいですか？

**北井さん：** 選考員の皆様が選ばれた通りで良いと思います。

**福廣さん：** そういう選び方をしたいと思うのですが、選考委員の皆さん、会場の皆さん、そりゃ問題があると思われたら遠慮なくいってください。

同意をいただけたら、拍手で同意いただけますか。

（会場 拍手）

ありがとうございます。

そしたら、グランプリは、高時川源流の森と文化を継承する会。準グランプリは、特定非営利活動法人芹川。それから渋川生き物絵図作成支援委員会。ということに決定させてもらいました。

（会場 拍手）

## 講評とメッセージ

**福廣さん：**一番肝心な、選んで、わたしはどうやったということ、えーと、片寄先生のスケッチを映してもらわなあかな。・・・(笑)・・・

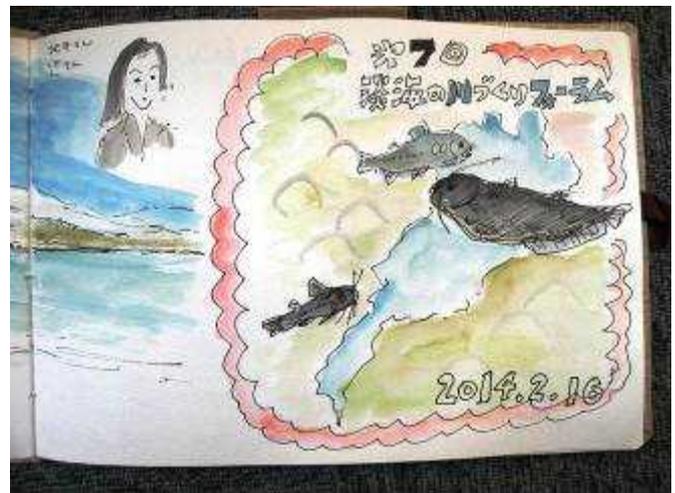
片寄先生、スケッチをコメントしてもらいながら・・・

**片寄さん：**えっと、振り返って本日、エントリーいただいた参加者の、いろんな成果を全部、お知らせしたいんですけど。わたしは、Cグループしか見ていないので、他のグループのところは、うまくスケッチできていなく、なんとかつじつま合わせになって申し訳ない。



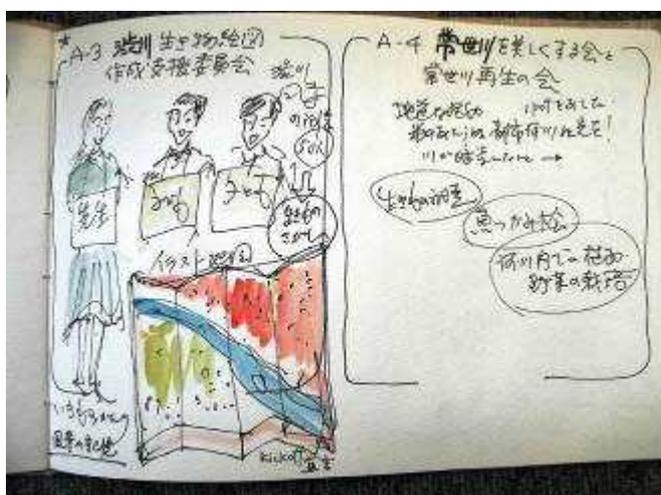
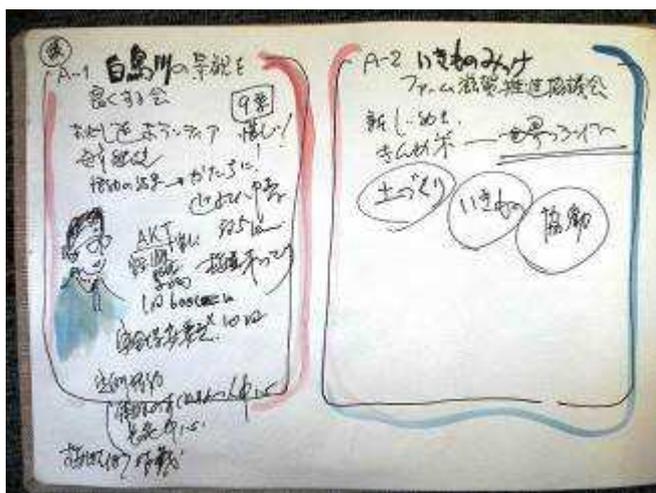
外を見渡しますと、今日は比叡山が美しかったですね。真っ白に輝いておりました。

第7回のフォーラム、北井さんの素晴らしいスタイルと・・・(笑)、淡海の川づくりフォーラムを書きました。



Aの1「白鳥川の景観」ですが、おやじ達のボランティア、いやー9票で惜しい。AKTのキーワードも面白い。

Aの2「いきものみつけ」のキーワードですが「土づくり」「いきもの」「協働」。

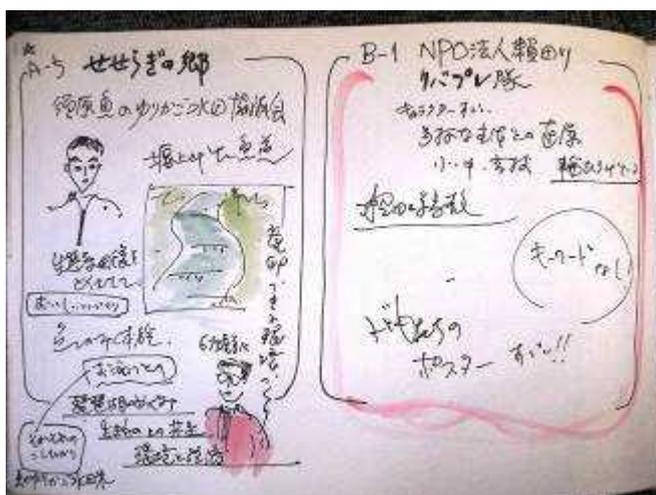


次にAの3「渋川生き物絵図」これは、屏風を発表いただいて「風景の記憶」いい言葉ですね。この「記憶」を現実のものにしたいですね。

Aの4「常世川を美しくする会」のキーワードは「生きもの調査」「魚つかみ大会」「河川内での植物、野菜の栽培」

次にAの5「せせらぎの郷」ですが、「堰上げた魚道」「産卵できる環境をつくりましょう」と、また、それぞれのコシヒカリでそれぞれにお酒がある、耳よりな話ですね。(笑) 各家で全部違うお酒ができるということですね。

次にBの1「NPO法人瀬田川リバブレ隊」これはすごい活動ですね。キーワードが書けないほどの、大変な活動でした。(笑) 子供たちのポスターも大変良かったと思います。



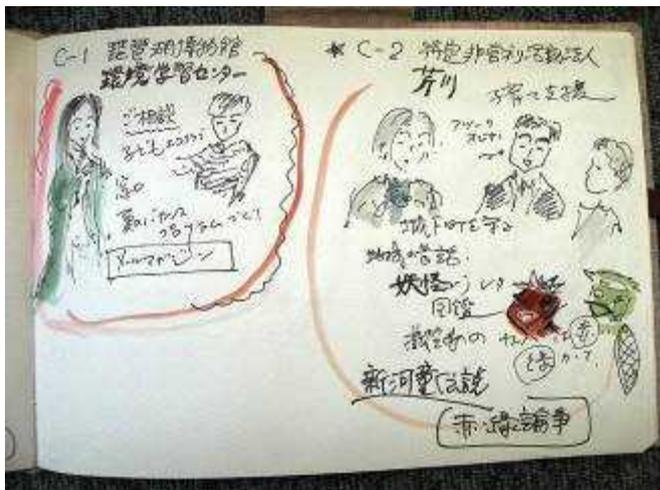
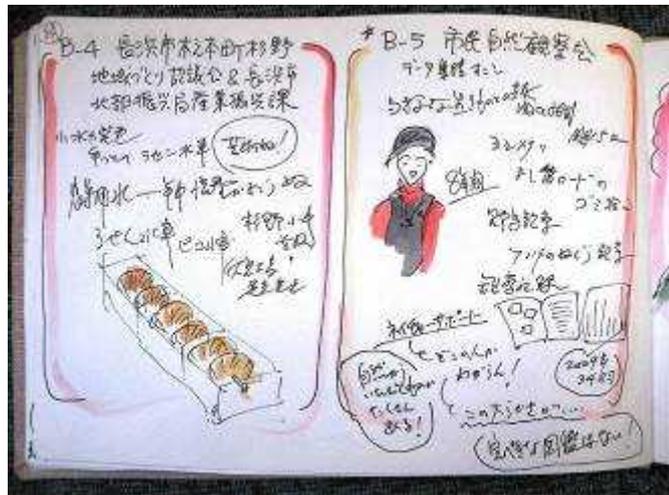


次にBの2「ひろい心の会」です。  
 (ごみを)拾うと「こんなところにごみを捨てやがって」の気持ちを抑えて「広い心」の環境を作る。これはなかなか泣かせました。生きものが回帰する川をつくりたい。

次にBの3「守山市勝部自治会」これはまたコスチュームが何とも言えず可愛くて、カフェ「ちょっと」、「ちょっと」寄っているうちに大きい仕事ができる「勝部」の教訓です。

次にBの4「長浜市木之本町杉野地域づくり協議会」です。芸術的な「らせん水車」、ピコ水車（ピコピカ）とも言うんですか。これが回る日に水車を見ながら、その水でウイスキーを割るのもいいんじゃないかなーと思います。

次にBの5「市民自然観察会」。これは先ほど申し上げました「完璧な図鑑はない」。この方のコスチュームもなかなか魅力的で。



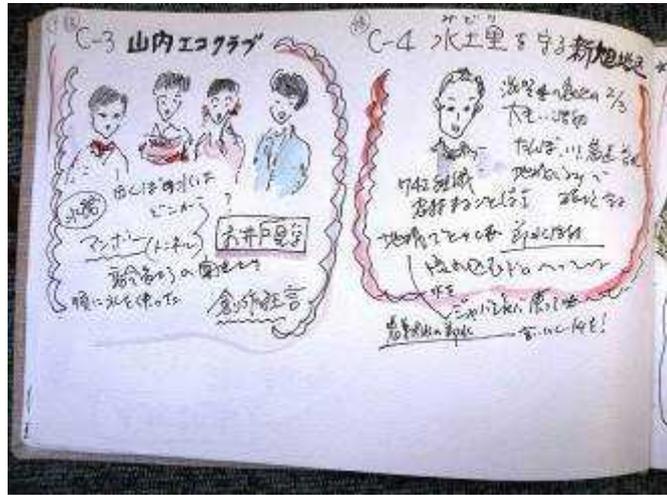
次にCの1「琵琶湖博物館環境学習センター」ここは説明がへたくそでした・・・(笑)・・・

もうちょっと上手に説明してもらえれば、もっとよかったのに。博物館の人はもう少しパフォーマンスを勉強しなければいけない。私は声を大にして言いたい。それが上手になりますと博物館に本当に人々が集まる場所になっていくと思います。

次にCの2「特定非営利活動法人 芹川」、ここは新かっぱ伝説で「赤か緑か」・・・(笑)・・・

この話は、すごく面白いですね。妖怪の妖の字はなぜ「女」偏なのか・・・(笑)・・・なんとなく納得できなくもない。

次にCの3「山内エコクラブ」なんと、みやびちゃんが、可愛い娘になってきました。彼女が小学生のころからずっとファンなんです。今後、どんな成長をしていくか、後輩たちも育っていますね。山内エコクラブの子供たちはなんて可愛いだろうと思います・・・(笑)・・・



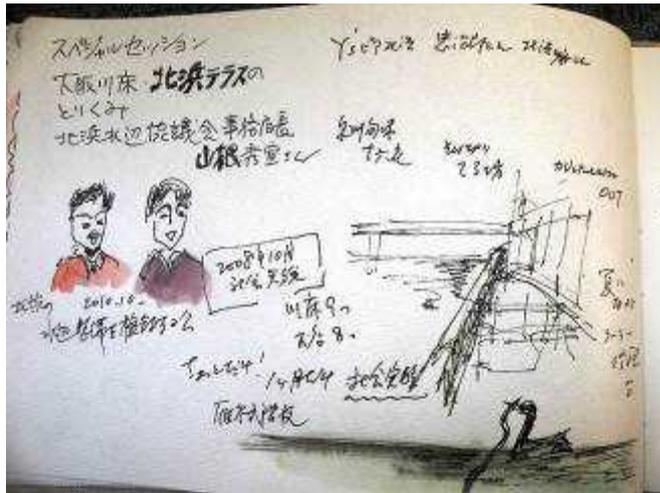
次にCの4「水土里(みどり)を守る新旭地区」ここは、本当に742組織のことを、人が入れ替わって長々と説明されてね、結局何をしているかということが分かりづらくて。ただ、それが同情票となって、・・・(笑)・・・この選考のしかたは、なかなか新しかった。上出来な選考員がそろっているなど感想でした。



次にCの5「高時川源流の森と文化を継承する会」ここの発表は泣かされました。カッコいいし。車いすで、淡々のご説明してもらって。ブナの森、森林文化の宝庫なんですね。こうした場所をどう生かすか、長い苦しいときをすごされて、これからですよ。花咲かす高時川源流を期待したいと思います。

次にCの6「琵琶湖河川レンジャー有志」ここもね、あんまり説明が上手じゃなかった・・・(笑)・・・ごめんなさい、やっぱりうまかった・・・(笑)・・・そうそう、河川レンジャーは・・・川辺の物語についてなど、国語の勉強もさせてもらった。

次にスペシャル・セッションの「北浜テラス」ですが、この方とは前からご存じなんです。山根さん面白かったですね、「ちょっとだけ」それが1ヶ月もやっけても。



今日は「ちょこっと」とか「ちょっと」がキーワードとなりました。「ちょっと」やっていきいくとやめられなくなっていく。「やめられない・止まらない」社会実験なんて、あの人が言うと嘘くさく聞こえるのは私だけでしょうか・・・(笑)・・・やっぱり「大阪の人」ですよ。

これは選考員さんのスケッチです。これで本日の総括にかえさせていただきます。(会場 拍手)



**福廣さん**：片寄さんから総括いただきました。

選考員のみなさんからキーワードを紹介いただきましたけれど、順に一言いただけますか。

**さとうさん**：どうも、今日は一日とても楽しい時間を過ごすことができました。ありがとうございます。そうですね。我ながら白鳥川の皆さんの活動に美学を見出したのは、自分では結構・・・ずっと考えていたんですけど、やっぱりすごいですよ。「この凄さはなんだろう」と思って、でなんか、やっぱり「美学」の言葉がでてくる前に「嫉妬」という言葉が出たんですよ。

なかなか、こう、1回、2回目は票が入るんですけど、なかなかそれ以上にかかないのは、私たちも「嫉妬」しているのかなと思って、活動が美しくて。同じように勝部自治会さんにも、私なんかはちょっと「嫉妬」してしまうんですよ。なんか、そういう風な自分と審査する立場の自分を振り返りながら、そういう事を感じました。こんな感想でよろしいでしょうか。

**福廣さん**：ありがとうございました。

**菊池さん**：今日は皆さん、本当に長い時間お疲れ様でした。楽しい発表をいっぱい聞

かせていただきありがとうございました。えっと、頭の整理が出来ていないんですけれど、自分自身の仕事ことも踏まえて、印象に残ったことは、あの、えっと、絵図を書かれた渋川の取組みで、私も「ふるさと」を好きになることという言葉、本当に気持ちに響いていて、自分の仕事の中で「生物の多様性」というキーワードのなかで仕事をする人が多いんですが、よく生きものと向き合う時に「やれ希少種だとか」「やれ何々生物だとか」「保全をどうするかとか」といった話をするんですけれど、本当に生き物との関係が人ところ、響きあっている姿こそ、本当に大事なんだなとあらためて感じまして。生物多様性というキーワードが薄ぺらっく感じてしまいます。本当に色々な「学び」を教えてくださいましてありがとうございます。

**山道さん**：あの、全国大会の運営をやっておりまして、地域の大会にだしてもらい、今回本当にものすごい質の高い発表があったなと、このまま全国大会をやってもいいんじゃないかと感じました。とても勉強させていただきました。ありがとうございます。

あの、今日の話のなかでやっぱり一番感動したのは、やっぱりその活動そのものが精神と実態にとっても良い結果をもたらすということが、みなさんの活動の中で実証されているのではないかという気がいたします。ぜひ、あの、ごみを拾いたくて、ずっとやってきた方が、だんだん川も地域もごみがなくなってきて、やる事が無くなり病気になっちゃたと・・・(笑)・・・ごみが無いと達成感がないと、しょうがないからごみを撒くかと・・・(笑)・・・それは冗談ですけど、是非ですねそうした活動が心身ともに健康につながるということを、皆さん是非、もっと歩を進めていただいて我々に実証していただければと思います。大変、希望を持ちました。ありがとうございました。

**朴さん**：毎回ながらいつも、たくさんのご事を学ばせて頂いて、帰りはちょっと疲れたかなと思いつつも達成感を感じています。今回もそうなったことに感謝します。

私から一つだけ申し上げたいんですが、滋賀の方は老人力がすごいなと思っていて、それに伴って、子供の力も理解してもらえればなと思って、それは、私は大学にいるんですが、この子供たちのことは、私が拾います。よろしくをお願いします。

**福廣さん**：ありがとうございます。知事のコメントは閉会の挨拶と一緒にですね。それでは僕からですが、司会特権で長く話そうと思います。

4年もさせてもらっていて、ほんとにうまくできません。卒業できないな～、クビになるかな～と感じなんです。

4年なので4つだけ、僕は「見本市だ」と言ったんですが、「見本市」は何を言っているかと、たぶんコミュニティカのことを言っているだと、コミュニティカの見本市やと。

僕はUR、公団の団地で仕事しているんですが、団地の家賃の値段はその

コミュニティで決めたらどうやと言う意見を持っているんですけど、これはコミュニティカの見本市やと思いました。

それから2つ目ですけど、山道さんのところで全国会議をやってると言っていましたね。中央卸売市場と地方市場、滋賀市場と、このセットを続けるということは、一つの渋滞なしに、継続課題というのはものすごく大きいと思うんですけど。地方に広がって継続していく。もう一つは同窓会ですね。去年も言っていました、たくさんの方が、常連さんに近い人たちが、だんだん進化している。それを、実行委員長が言っていたように視察しあうツアーを行ってみてはどうか、非常にいいんじゃないか。

あの、最後です。近代化して行って、このまま、一方的な近代化をして行って大丈夫なのかなと言う気がしていて、本当に危ないんじゃないかと思ってまして。

小保方春子さんではないですが、割ぼう着の初期化で、くらしの初期化のネタをいっぱい見せていただいたと思います。ありがとうございました。

これで知事にバトンタッチしたいと思います。

## 閉会挨拶

**嘉田知事**：最後のコメントということですが、これは何よりもお礼の言葉とさせていただきます。よろしくお願いいたします。



今回も16の団体がエントリーして頂き、朝から丸1日びっちりとしても全然語り足りないくらい、皆さんの活動の根が深く張っているということを今回も教えていただきました。

そしてその中で本当にきついんですね。背中に皆さんの目が刺さっている。こんな審査会はないんですけど、お互いにそれぞれが当事者であるということの証であるのだと思います。そして今、福廣さんが言ってくださったとおり、全国マーケットと、地方マーケットそれに国際マーケットまでであるということで韓国の国際マーケットまであります。

実は、来年、世界水フォーラムが韓国テグでされます。この世界水フォーラムに是非この住民力川と水と命をめぐる住民力というのを、水フォーラムの中でそれぞれ、全国と地方を合わせて出品したいなと思っております。皆さんいかがでしょうか？そこには老人力と子供力と、男性力と女力とそれぞれにみんなの多様な力を、それぞれ今日のこういう中から出せると思っております。

今回で7回です。来年で8回ということになるんですけど、まあこれ以上私は申しあげませんが、もう任期はなくなっております。7月19日で任期は切れるんですけど、2期8年近く知事をやらして頂き、本当にダムの問題も先が少しずつ見えてきて、流域治水は9月議会11月議会が継続審議になりました。結果的には継続審議になったことで、川の中だけで守れない命を、どうやって川の外そしてそれは今日の福祉の問題とも繋がる川というのは私たちの人生を写し、社会を映すんだということを学ばして頂く、そういう機会でもあったと思っております。実は明後日、9月に出した原案をいったん撤回をして、そして出し直しをさせていただきます。一部修正をいたします。執行部が、撤回をして修正するのが恥だというご批判もありますけど、この間、議会、住民そして社会の皆さんのご意見を受け入れて修正させて頂く、これも2元代表制の一つの方向だと思っております。2月の18日に再提案をして3月24日が議決です。そこで議決を頂けると、日本で初めての流域治水の条例が成立することになります。

この条例の成立には、本当に今日こちらにお越しの皆さんの実践と、川の中だけではない、川の外も含めて街づくりと人生づくりが、この命を守る川の水害対策流域治水に必要なだと、それは狭いものではなく、正に近代とは何だった

のか?ということも教えてもらう、そういう運動だろうと思います。

私たちは、今日はかなり行政のものも学ばして頂きました。なによりもこの大会（フォーラム）は行政マンが住民参加（行政参加）させて頂くそういう場所だと思っておりますので、この後も立場を超えて、より良い社会づくりに貢献できるようなそういう滋賀県でありたいと思っております。

言葉足らずですけど、本当に実行委員会の皆さん、ここまで引っ張ってきていただいた。そしてテーブル・コーディネーターから最後のコメントターまで本当にみんなで作り上げるこのイベント（フォーラム）の大きな成果が最後に皆さんの動きの中で結集をしたと思っております。

改めて 16 の団体皆さんにお礼を申し上げるとともに、また後ほど表彰させていただきましても、高時川、芹川、実はこの2つの河川は私がダムに頼らない治水ということで約束させて頂いた6つの川の中の2つでございます。こうやって川とともに、森とともに、水とともに生きる住民のみなさんの決意も聞かせて頂いて、改めて感謝を申し上げたいと思います。

言葉足らずですけども、これ以上言うと私ちょっと涙がでてしまいそうですので、これで終わらして頂きます。どうも皆さんありがとうございました。

## 6 テーブル選考 選考員

(五十音順)

### テーブル A

(テーブル・コーディネーター)



#### 小丸 和恵 (こまる かずえ) / NPO法人子どもと川とまちのフォーラム 理事

大阪府生まれ、愛媛県と京都府育ち。びわ湖の近くに越してきて2年。

『子どもが育つ流域の再生』のためには、世代や立場、分野の壁を越えて人々が信頼関係のもと、つながることが大切」との思いから、ライフワークとして京都で活動을續けて、十数年。これまでのフィールド京都と滋賀をつなぐ役割を担えればと願っている。

3・11後の暮らし方を提案する「あるもん(自然素材・リサイクル・地産地消)」を大切に暮らす「arumonde暮らしを楽しむ会」も主宰し、被災地からの避難ママたちとの活動もサポートしている。

(選考員)



#### 野崎 信宏 (のざき のぶひろ) / 流域政策局 河川・港湾室長

1961年滋賀県大津市生まれ。84年土木技術職として滋賀県に入庁。

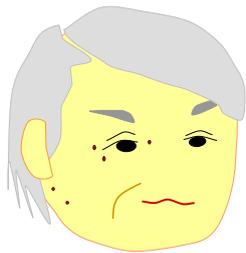
以前は都市計画行政に携わることが多かったが、98年以降は河川行政を中心に担当。若い頃は、カヌーで各地の川に親しんでいたが、最近は半分仕事、半分遊びで川歩き、山歩き。2010年には大津市内の一級河川をほぼ踏破。

#### 松尾 則長 (まつお のりなが) / 犬上川を豊かにする会

2001年の川づくり会議の地域委員をきっかけに流域の深みに溺れてしまい、その流れから立ち上がった「犬上川を豊かにする会」に参加。

設立もない同会が2003年第3回世界水フォーラム in 滋賀の東京プレ・水フォーラムにパネラーとして参加し、力不足を痛感し今日に至っています。

流域自治会、学生達とともに協働をはかり、犬上川の管理をサポートする会です。



#### 山口 美知子 (やまぐち みちこ) / 滋賀地方自治研究センター 理事

滋賀県長浜市(高月町)生まれ。林業技師として滋賀県入庁後、2012年3月から東近江市職員(現企画部まちづくり協働課)となる。仕事以外では、持続可能な地域モデルを検討する「滋賀地方自治研究センターびわ湖プロジェクト」、びわ湖の森を元気にする活動をしている「kikito」、市民活動を支える中間支援組織「NPO法人まちづくりネット東近江」等に参加している。



## テーブル B

(テーブル・コーディネーター)



(選考員)

### 佐藤 祐一 (さとう ゆういち) / 琵琶湖環境科学研究センター 研究員

専門は「なんでも屋」。水質や魚のシミュレーション、環境・社会調査、環境計画づくり、オペレーションズ・リサーチ、ワークショップのファシリテーターなど、とにかく広く関わることで見えてくる「何か」を探して日夜研究活動中。2008年から3年間は、市民参画により琵琶湖流域の将来像を描くプロジェクトの事務局を担当。その結果はマザーレイク 21 計画の将来像として取り入れられた。



### 田中 秀子 (たなか ひでこ) / 筑後川水問題研究会

福岡県生まれ、原田正純先生(水俣病)との出会いや広松伝さん達との筑水研活動(1978年～)、から不条理には楯突きつつ、命にとって本当に大切なものを学ぶ。

莫大な予算をつぎ込みながらも増大する災害に対し、干満差6mの有明海・佐賀平野の伝統的治水技術(減災の知恵)で上手にあきらめる(溢れさせる)流域治水を発信中。

国土交通省を定年退職後再任用。朗読ボランティア(音訳、読み聞かせ)で地域デビュー。



### 金尾 滋史 (かなお しげふみ) / 琵琶湖博物館 学芸員

1980年広島県生まれ。当時学長をしていた日高敏隆先生と琵琶湖の魚に憧れ、滋賀県立大学へ入学。その後同大学院、多賀町立博物館学芸員を経て現職。専門は淡水魚の保全生態学。

学生時代から地域の川づくり、河川・田んぼでの環境教育にいろいろと参画してきた。現在は、地域の子どもたちに囲まれながら、「学」と「芸」を両立させるカリスマ学芸員を目指して日々修行中。



### 吉田 栄治 (よしだ えいじ) / 白鳥川の景観を良くする会 代表

2006年2月に白鳥川の景観を良くする会を発足、今年は9年目になり会員は約70名、白鳥川流域約5kmの除草作業やごみ拾い、桜並木づく活動を月2回の作業で流域の景観向上に努めております。

現在、市民に親しまれる川づくりを目指し約800m手作りの桜ぼんぼり点灯や鯉のぼりの川渡し、地元小学校と連携し5年生の川での環境学習支援に活動中。来年は発足10年目の大きな節目より楽しくなる活動に向けアイデア募集中。

## テーブル C

(テーブル・コーディネーター)



### 三和 伸彦(みわ のぶひこ) / 琵琶湖政策課 参事

1963年滋賀県長浜市生まれ。87年化学の技術職員として滋賀県に入庁後、環境政策課やエコライフ推進課など、一貫して環境行政を担当。

地元では湖北のタウン誌「長浜み～な」のボランティアスタッフとして、ふるさとの再発見をライフワークに、日々の暮らしの中で豊かさや幸せを感じられる心のあり方を模索中。

(選考員)

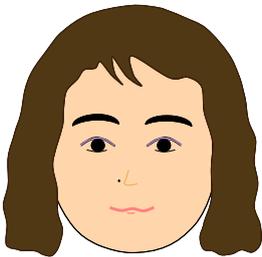


### 青田 朋恵(あおた ともえ) / 湖北農業農村振興事務所 課長補佐

仕事では、「世代をつなぐ農村まるごと保全向上対策」や「魚のゆりかご水田プロジェクト」などに携わり、生物多様性と農村の活性化などについて考えています。最近では、「再生可能エネルギー」について関心をもっています。

農山村が、いつまでも元気で明るくあって欲しいと願い、そのために何が出来るか、自分の無力さを感じつつも、日々悪戦苦闘しています！

プライベートでは、農山村に古くから伝わる郷土料理や食材に魅せられて、常に鼻をきかせ、いいにおいのする方向へは猪突猛進していきます。



### 小坂 育子(こさか いくこ) / 子ども流域文化研究所 代表

三重県生まれ。水と文化研究会・子ども流域文化研究所・地元学ネットワーク近畿。「水と人とモノの関わり」にある身近な水環境を通して、それぞれの地域の暮らしにあるいろいろな仕組みを学びながら「ムラの元気応援団」をめざしている。

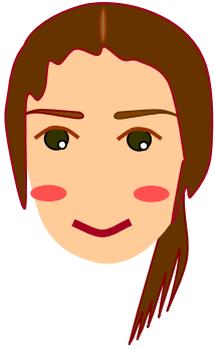


### 中村 大輔(なかむら だいすけ) / びわ湖エコアイデア倶楽部

滋賀県彦根市生まれ。「アイキッズ」「伯母Q五郎」等、こどもエコクラブの指導者。地域に根差した子どもたちの環境教育のプログラム開発・研究を行っている。また、様々な子ども交流会の企画・運営にも携わる。琵琶湖をはじめラムサール条約登録湿地で活動する子どもたちの交流会では、国内外においてファシリテーターを務めている。

## 7. 全体討論 選考員

(五十音順)



### 菊池 玲奈 (きくち れいな) / 結・社会デザイン事務所

2002年10月から約2年、霞ヶ浦の環境保全などに取り組むNPO法人アサザ基金に勤務。2004年10月から約4年、東京大学大学院保全生態学研究室にて、市民・研究者協働による生物多様性保全に関する実践的研究に携わる。

現在、滋賀県に移り住み、環境保全に関するさまざまプロジェクトのコーディネーターや講演などを中心に活動中。



### さとうひさえ / 天若湖アートプロジェクト 実行委員長

静岡県浜松市生まれ。京都芸術短期大学卒業後、2002年アートと市民をつなぐNPO「アート・プランまぜまぜ」を設立。現理事長。

2005年からは桂川流域ネットワークとともに桂川の流域連携を目的にした「天若湖アートプロジェクト／あかりがつなぐ記憶」を毎年開催。日吉ダムに沈んだ村のあかりをダム湖に灯す巨大アートは地域の風物詩として定着しつつある。

これからも、アートの力で地域を再発見する試みに挑戦していきたいと思っています。

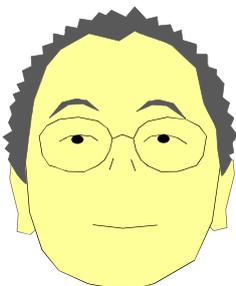


### 朴 恵淑 (ぱく けいしゅく) /

#### 三重大学理事・副学長 (環境・国際・男女共同参画担当)

1954年韓国ソウル生まれ。日韓の架け橋として、大気汚染や地球温暖化、水環境保全、環境教育に関わっています。3・11の東日本大震災により、環境の大切さに気づき、絆の素晴らしさに気づき、未来に希望をつなぐことに皆、必死で取り組んでいます。

「淡海の川づくりフォーラム」が、青いゴールドと呼ばれる水資源や水環境の大切さに気づき、日本を動かす大きなムーブメントとなれるよう、頑張ります。



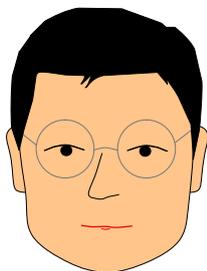
### 山道 省三 (やまみち しょうぞう) / NPO 法人全国水環境交流会 代表理事

1949年11月、長崎県長与町生まれ。子どもの頃、川や魚と慣れ親しむ。

NPO 法人多摩川センター、NPO 法人全国水環境交流会の立ち上げから関わり、現在は両団体の代表理事を兼任。社会参加、NPO の運営等、仕組みづくりに興味を持つ。一昨年から“いい川”づくり研修会で全国巡業中。「川の日」ワークショップ～いい川・いい川づくりワークショップ (1998年～) 事務局長、多自然川づくり研究会。

## 8. 総合コーディネーター・コメンテーター & 実行委員会

(総合コーディネーター)



**福廣 勝介 (ふくひろ しょうすけ) / NPO法人 近畿水の塾 理事長**

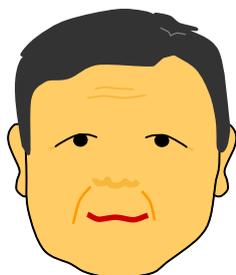
京都大学農学部林学科卒業後、日本住宅公団（住宅都市整備公団を経て現・（独）都市再生機構）に入社、主に集合住宅の屋外の計画設計を担当。現在は（株）URコミュニティで団地管理に従事。住民活動では、NPO法人「近畿水の塾」代表理事、「川の会・名張」代表、NPO法人「全国水環境交流会」理事。自然復元系や協働の仕事に関心がある。昭和24年、三重県伊賀（名張市）に生まれ、爾来、数年間を除き名張住まい。関心事は、山・川・人との付き合い。団地故郷作り。脱近代。

(コメンテーター)



**嘉田 由紀子 (かだ ゆきこ) / 滋賀県 知事**

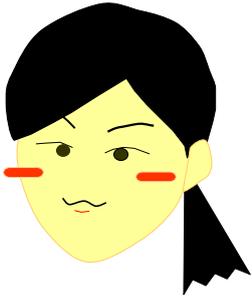
埼玉県生まれ。京都大学農学部卒業、ウィスコンシン大学大学院修士課程（農村社会学）修了、京都大学大学院農学研究科博士後期課程修了。琵琶湖研究所研究員、琵琶湖博物館総括学芸員、京都精華大学人文学部教授を経て、滋賀県知事に就任。好きな食べ物はふな寿司、ニシンナス、ぜいたく煮。趣味はカラオケ、孫と過ごすこと。特技は手打ちうどん、地図が読める。座右の銘、「まっすぐに、しなやかに」。



**片寄 俊秀 (かたよせ としひで) / まちづくり道場 道場主**

水辺と下町を同時に再生することこそが、人類の明日に〈ほのかな希望〉をもたらすと信じ行動する「川じじ」。いい川・いい川づくりワークショップ運営委員。まちづくり道場を主宰するが門人ゼロ。技術士・工学博士・一級建築士。著書『ブワナトシの歌』『スケッチ全国町並み見学』『千里ニュータウンの研究』『まちづくり道場へようこそ』『いい川・いい川づくり最前線（共著）』『いいまちづくりが防災の基本』『日本の石橋・世界の石橋スケッチ集』『まちを歩く・まちを描く』など。食のまちづくり研究の傍らアコーディオン教室に入門し初歩練習中。

(実行委員会)



---

**北井 香(きたい かおり) / NPO 法人木野環境 理事**

---

奈良県山辺郡山添村生まれ。興味があるのは田んぼ、農村の文化、そこで生きる人、日々重ねられた生活。子ども流域文化研究所での過去の水害聞き取り調査に従事し、現在は NPO 法人木野環境 理事。

滋賀の農山村の情報発信・地域づくりの業務に関わり、県内各地へ赴く。地域の良さを前向きに活かして、活動・発信・取組んでいる人たちを盛り立て、応援したい。現職は滋賀県立大学 特定プロジェクト研究員。2009 年に流域治水検討委員会(住民会議)を母体とした淡海の川づくりフォーラム実行委員会を立ち上げ、現在、実行委員長。

(流域治水検討委員会(住民会議)  
実行委員会)



大橋さん



杉本さん



松尾さん



中井さん



柴田さん



石津さん



菌黒さん



成宮さん



中村さん



多々納さん

## 9. 参加団体 活動概要

### (A-1)

団体名	白鳥川の景観を良くする会(略称:景観隊)
活動概要	白鳥川流域の環境整備活動と市民の憩いの場づくり(桜並木づくり、体験学習場づくり、健康づくり)
キーワード	① 景観向上 ②時代をつなぐ ③メンバーの3づくり
川や水辺の名称	① 白鳥川 (JR線～びわ湖河口付近)、 ②藤間川 (医療センター～白鳥川合流点)
発表内容	<p>◆白鳥川流域の環境整備活動で地域の「景観向上」に貢献。</p> <p>(1) 活動エリア5kmの場所に於ける除草作業、ごみ拾い等、年間24回の定例活動で環境美化。</p> <p>(2) 2006年発足以来、8年9ヶ月間で179回活動(参加者5417名、除草距離100.7km、ごみ回収13.3t)。</p> <p>◆次世代に思いをつなぐ…市民に親しまれる「憩いの場づくり」で、この自然景観を後世に残したい。</p> <p>(1) 小学校5年生の環境・体験学習の支援、「川に入って生き物調査」他…幼児頃の良き体験づくり。</p> <p>(2) 子供と連携の「桜ぼんぼり」づくりや市民提供の「鯉のぼりの川渡し」等、良き思い出づくりに貢献。</p> <p>◆少子高齢者社会の中、メンバーの3づくりで元気な街づくりに寄与する。</p> <p>(1) 活動を通し、メンバーの3づくり(健康づくり、生きがいくくり、仲間づくり)に寄与。</p> <p>(2) 特に活動を通し地域住民からの嬉しい声に、やりがいや生きがいを感じ、活力の元になる。</p>

### パネル



(A-2)

団体名	いきものみっけファーム滋賀推進協議会
活動概要	身土不二、地産地消に立脚した農産物の生産と安全安心な食と生命について考える環境学習を展開しています。
キーワード	①土づくり ②いきもの ③協働
川や水辺の名称	野洲川 日野川

**発表内容**

平成24年12月に推進協議会設立からはじまりましたいきものみっけファーム滋賀は、県内の中山間地の農業を活性化することによって、里地・里山の自然環境の保全、子どもたちの環境教育、安全で健康のための食育の推進などを総合的に進める構想を持ち活動しています。今年度は、いきものみっけ寺子屋の環境学習と有機・循環型農法をはじめました。

今年度の取り組みを発表します

パネル

(A-3)

団体名	渋川生き物絵図作成支援委員会
活動概要	地域の人々と創る「渋川生き物絵図」
キーワード	① 環境教育 ②ESD ③生物多様性
川や水辺の名称	伊佐々川・葉山川（渋川小学校区）
発表内容	<p>草津市立渋川小学校の6年生の子どもたちは、渋川学区にどんな生き物がいるか調べて、絵図にまとめる計画を立てました。6年生の呼びかけで全学年が、担当する生き物を決め、「渋川学区の生き物探し」が始まりました。その絵図作りを支援するために立ち上げたのが、「渋川生き物絵図作成支援委員会」です。子ども代表、全教職員、地域代表、行政関係者、有識者で組織しています。当委員会が下絵作成を担当し、全校児童が生き物と関わる自画像を張り付け、「渋川生き物絵図」が完成しました。生き物と関わる活動や絵図作りを通して、地域のすばらしさを再発見するとともに、ふるさと渋川への愛着を深めることができました。</p>
パネル	

(A-4)

団体名	常世川を美しくする会と常世川再生の会
活動概要	清掃事業から昔の様に生き物が沢山住んでいた川への再生活動を実施しています。
キーワード	① 常世川の生き物調査 ② 魚つかみ大会 ③ 河川内での植物・野菜の栽培
川や水辺の名称	常世川（大津市松本2丁目付近）
発表内容	<p>過去の治水工事の為、生き物が住みにくくなった川に、再び、生き物が戻って来られる様な環境を作りと子供達の親しみやすい川づくりを目指しています。</p> <p>① 常世川にどんな生き物がいるのか、毎年調べています。</p> <p>② 街中を流れる川で、年に1回子供達が魚のつかみ取りをしています。</p> <p>③ 花壇を作り、植物を植え、また、野菜を植えています。野菜は、出来たら地域の行事の時の食材の一部になっています。</p>
パネル	

(A-5)

団体名	せせらぎの郷
活動概要	魚のゆりかご水田活動。
キーワード	① 琵琶湖めぐみ ② 生きものとの共生 ③ 環境と経済
川や水辺の名称	野洲市須原

発表内容

我々須原では、琵琶湖に近い自然豊かな田園地帯であり、昔から田んぼに出かけフナやコイ、ナマズなどをつかんで晩御飯として食す生活を過ごしていた。

昭和40年代から始まった湖岸整備やほ場整備等により、農業の合理化や交通の利便性は高まったものの、琵琶湖と水路、水田といった生きものとの連続性が損なわれてしまったため。湖魚が産卵・成育できる水田環境を取り戻し、生きものに配慮した水田（魚のゆりかご水田）づくりを行って行こうと決意。平成19年度より、農家、非農家とともに、地域全体で排水路に階段上に堰上げした魚道を設置し、魚が田んぼに遡上しやすい環境を整えている。

また水田オーナー制を一般公募し田植え、稲刈り体験や生きもの観察会を実施、都市住民との交流活動等を展開。地域住民の参加だけでなく東京や大阪、大津などの交流にまで発展し、琵琶湖と水田のつながりだけでなく、人と人とのつながりも大きく広がり、人と生きものがにぎわう農村地域の活性化が図られるようになった。その結果として、

平成23年度 豊かなむらづくり全国表彰事業「農林水産大臣賞」受賞

平成25年度 田園自然再生活動コンクール「子どもと生きもの賞」受賞の栄誉を得ました。

パネル



(B-1)

団体名	NPO 法人瀬田川リハブレ隊
活動概要	地域に流れる小さい河川や瀬田川における維持管理活動を実施しています。
キーワード	
川や水辺の名称	高橋川および瀬田川（大津市神領町）
発表内容	<p>建部大社周辺を流れる高橋川の河川清掃は毎月 25 日と瀬田川バイパス下のコムラサキシキブ周辺と河川敷の清掃活動は毎月 10 日と長期間にわたり活動を推進しています。今回も大きな変化はありませんが、我々の活動に協力いただいている方々の紹介をして報告とさせていただきます。</p> <p>①大津市の環境美化センターで 2 箇所の活動で集められたごみは当センターに連絡することにより処理して下さっています。このことは我々の活動の原点となっています。</p> <p>②瀬田南小学校との連携はいろいろありますが、子供たちに書いてもらった「河川を綺麗にしよう」の感性豊かなポスターを河川敷のフェンスに取付け、ポイ捨て禁止の啓蒙を図っています（現物紹介）</p> <p>③瀬田工業高校の生徒さんによる河川の水質調査結果・・・結果は綺麗な水質であることを確認しています。</p>
パネル	

(B-2)

団体名	ひろい心の会
活動概要	川からごみを一掃し、いきものが住みやすい環境をつくる。
キーワード	① ごみのない川へ ②生きものが回帰する川へ ③協働・協助
川や水辺の名称	蛇砂川（玉緒橋～下二俣橋まで 東近江市上大森・尻無町）
発表内容	<p>平成 19 年(2007 年)滋賀県知事と淡海エコフオスター制度の実施について合意して以来、今日まで活動を続けている。</p> <p>私たちの活動は極めて単純明快である。上記キーワードのとおり、ごみのない川を実現するため毎週水曜日に蛇砂川及びその流域のごみ・不法投棄物を回収している。</p> <p>川がきれいになれば生き物は自ずと回帰すると信じている。そして専らごみを回収する私たちの後ろ姿が「協働・協助」の仲間作りになるよう広報活動にも力を入れている。</p>
パネル	

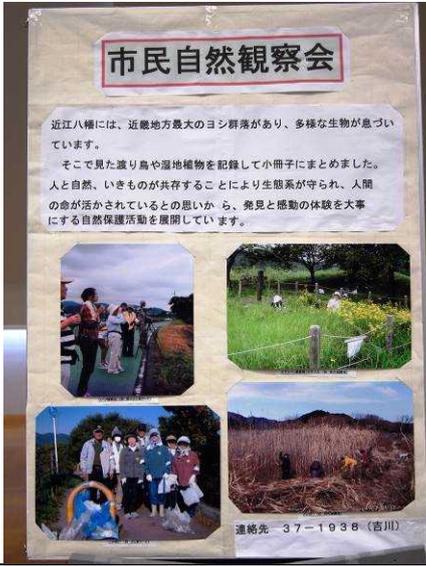
(B-3)

団体名	守山市勝部自治会
活動概要	親水・防災・水の恵みが生きる活動
キーワード	① 水辺のトレジャーハンティング ② 子どもたちのチャレンジと高齢者の挑戦 ③ 伝統を守りながら自治会活動に奮闘する若者たち
川や水辺の名称	勝部自治会内 たちばな川（楓三道）を含む9河川およびその支流となる水路、かつべほたる北の道（今宿川）、かつべほたる南の道（中水川） （守山市勝部1丁目～勝部6丁目および勝部町）
発表内容	<p>勝部は、昨年11月現在で、世帯数1800戸、人口4400人を超えた大きな自治会です。駅前でありながら、まち中を川や水路が縦横に走り、水辺には賑わいがあり、町民の日常生活に潤いと安らぎを与えています。だからこそ、身近な憩いの場や動植物の生息・生育環境となる水辺・緑の保全と活用は重要であると考えています。</p> <p>町内にある水辺のトレジャー（お宝）をハンティング（探し）し、日常生活の中で地域に愛着を持ったり、豊かな水辺や緑の空間を後世に繋いだりするために、チャレンジする子どもたちや高齢者の挑戦、そして、鎌倉時代から続く県を代表する勇壮な火祭を守りながら、自治会活動に奮闘する若者たちの姿をお伝えします。</p>
パネル	

(B-4)

団体名	長浜市木之本町杉野地域づくり協議会 & 長浜市北部振興局産業振興課
活動概要	「近いエネルギーで地域を元気に！」
キーワード	① 小水力発電 ②地域づくり ③学校教育
川や水辺の名称	杉野川（長浜市木之本町）
発表内容	<p>長浜市木之本町杉野地域では、これまで、地域住民が一丸となって芝桜を植栽するなど、「みどり豊かな杉野地域」を目指して、様々な地域活動を行ってきました。</p> <p>美しい杉野川周辺でのホテル観察会や、耕作放棄地を農園として活用する活動、古民家を改修した「さきち」を中心とした都市住民との交流活動など、バラエティ豊かな取組を行っています。</p> <p>そうした活動に加え、今年度から、地域の豊かな「水」を活用したマイクロ水力発電による「近いエネルギー」に取り組んでいます。</p> <p>再生可能エネルギーや自然エネルギーについては、東日本大震災以後、特に注目されている課題であり、再生可能エネルギーについては、長浜市にとっても、重要な政策のひとつです。</p> <p>そこで、今回は、豊かな水資源をもつ杉野地域と長浜市がコラボして農村に「近いエネルギー」の取り組みを始めました。杉野小中学校の生徒の皆さんと一緒に、杉野地域の豊かで美しい水を活用して、地域の核となる施設に「灯り」を灯します。</p> <p>現在、マイクロ水力発電を2基設置していますが、もう一基、地元の木を切り出して、手作りの水車を作っているところです。今回は、これらの製作中の水車の話も含めてご報告いたします。</p>
パネル	

(B-5)

団体名	市民自然観察会
活動概要	自然観察、湿地植物保全活動。
キーワード	①多様な生きもとの共存 ②豊かな自然を次世代へ ③人と人のつながり
川や水辺の名称	西之湖（園地）と周辺のよし笛ロード
発表内容	市民自然観察会は西之湖の豊かな自然を次世代へ、自然という遊び場の提供、自然環境保全への関与の場提供、人と人とのネットワーク作り、そして従来の自然観察にとどまらない「自然観察会」を開催することを目的に平成20年から活動してきました。その活動の内容は①西之湖よし笛ロードでのごみ拾い。②西之湖園地のヨシ刈と草刈。③西之湖での水鳥観察と植物観察。④市内里山での植物観察。⑤子供たちへの環境実習などです。そして、市民自然観察会発足以前から観察を続けていた西之湖の水鳥と植物の観察結果を冊子にまとめています。
パネル	

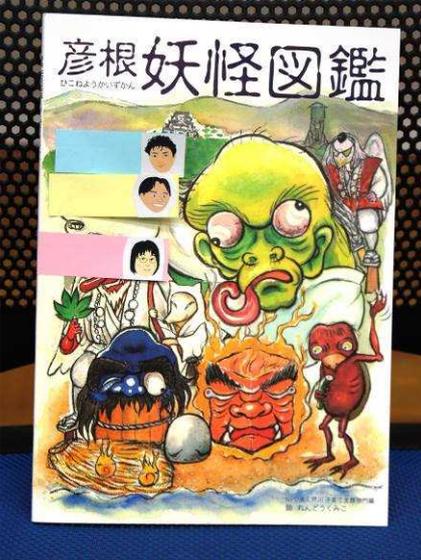
(C-1)

団体名	琵琶湖博物館 環境学習センター
活動概要	地域、学校、行政、企業、個人から団体まで、みんなの環境学習をサポートしています
キーワード	①環境学習のご相談 ②環境学習に役立つ情報を収集・発信 ③ネットワークづくり
川や水辺の名称	県内全域です。

発表内容	<p>琵琶湖博物館環境学習センターでは、皆さんからの環境学習のご相談に答えています。例えば・・・</p> <ul style="list-style-type: none"><li>○川で生きもの探しをしたい！ ・・・お魚博士や川保全活動団体、水生生物専門家などを紹介します。</li><li>○川で環境学習したい！ ・・・自然の状況や対象とする人（幼児から大人まで）に合わせて、環境学習のプログラムや運営方法を企画します。</li><li>○琵琶湖や川、環境問題などの本やビデオがみたい！ ・・・全部で450本以上のタイトルからお選びいただけます。</li><li>○子ども活動を発表したい！ ・・・こどもエコクラブにご登録ください。毎年12月に琵琶湖博物館で活動発表会を行っています。</li></ul> <p><a href="http://www.ecoloshiga.jp">http://www.ecoloshiga.jp</a> にアクセスください。講師や本、ビデオ、学習施設の情報が満載です。</p>	
------	--	---

パネル	
-----	--

(C-2)

団体名	特定非営利活動法人 芹川
活動概要	河川清掃、環境の整備から子育て支援・学童の受託運営の中で教育への関わりへ
キーワード	① 環境整備 ②子育て支援 ③地域の教育力
川や水辺の名称	芹川（彦根市 JR橋よりびわ湖）
発表内容	<p>地域自治会の実施していた芹川の草刈が地域の高齢化で継続するのが困難になった。しかし、美しい芹川を後世に残そうとする声上がり、当会が声かけをし一斉清掃として継続。その後、毎月清掃、河床の小さな樹木伐採へ。また、環境整備のために、芹川隣接近くの市有地を借りて、市民団体、自治会とコラボして、彦根りんご園・湖東焼窯・いちごパークの整備、公衆トイレの設置も。さらに地域の教育力を向上する必要があると考え、当初は、活動地域内3小学校の学童の受託運営からはじまり、26年度からは全ての5学区の学童受託運営を始める。その結果、河川域を中心とした地域の教育力の向上につながればと考える。</p>
パネル	

(C-3)

団体名	山内エコクラブ
活動概要	水路探検、地区踏査、聞き取り
キーワード	① 水路 ②生きもの ③分けあい
川や水辺の名称	野洲川（甲賀市土山町山内）
発表内容	<p>私たちの住む山内は琵琶湖に注ぐ野洲川の上流に位置します。</p> <p>今までには、川にいる生き物の観察や水質調査をしてきました。</p> <p>また、私たちの暮らしに欠かせない水については、「水道がなかったときどうしていたんだろう？」の疑問から井戸についてはお年寄りよりからの話を聞き昔の川の様子や水とのかかわり方を学んできました。</p> <p>今年は、水路について、現地を歩き調べました。比較として、条里制がある松坂市の櫛田川流域の圃場整備ができていない水路や田んぼも行きました。今回の発表では、水路探検をしてわかったことについて発表します。</p> <p>また、私たちの得意な創作狂言「水争い」の一節もご披露します</p>

パネル



(C-4)

団体名	水土里を守る会新旭地区
活動概要	農地や農業施設の維持管理活動、景観保全活動等
キーワード	①農業排水の節減による琵琶湖の汚濁負荷削減（節水活動） ②自然観察会の実施 ③コイ科魚類の産卵場づくり（水田魚道の設置）
川や水辺の名称	琵琶湖周辺の農地等（高島市新旭町針江集落ほか）
発表内容	<p>琵琶湖が「きれいな琵琶湖」と言われるためには、水質をよくすることや景観を保全することが必要で、地域住民の一人一人の理解と協力が必要です。</p> <p>農村まるごと保全向上対策のために設立した当団体が行っている以下の活動について発表します。</p> <ol style="list-style-type: none"><li>1. 農業排水の節減による琵琶湖の汚濁負荷削減手法について</li><li>2. 琵琶湖岸に近い田んぼでの観察会について（絶滅危惧種等の発見）</li><li>3. 田んぼをコイ科魚類の産卵場として活用するための水田魚道設置について</li></ol>
パネル	

(C-5)

団体名	高時川源流の森と文化を継承する会
活動概要	巨木と山村文化の保全活動
キーワード	① 高時川源流 ②トチノキ巨木林 ③ 山村文化
川や水辺の名称	高時川（長浜市余呉町小原集落、奥川並集落付近）

**発表内容**

滋賀県最北に位置する高時川源流域には、トチノキの巨木林やブナなどの広大な広葉樹林とともに、豪雪地帯独特の山村文化が永年に渡って育まれてきた。

このような森林と山村文化を保全し、次の世代に継承するために、高時川源流域出身の住民によって「高時川源流の森と文化を継承する会」が設立されて、活動を開始した。

今年度は、広大な森林に分布する巨木を1本ずつ調査し、小原地区では伝統的な小屋づくりを行った。今後も会の活動をさらに発展させて、琵琶湖淀川水系の最北端の水源を持続的に保全することにつなげていきたい。



(C-6)

団体名	琵琶湖河川レンジャー有志
活動概要	住民と住民ならびに住民と行政の連携・協働のコーディネーター（つなぎ役）として活動
キーワード	① 住民と住民、住民と行政の連携・協働のつなぎ役（コーディネーター） ② 住民の川への思いや知恵の聞き取り ③ 住民の川に関心を持てるような取り組み
川や水辺の名称	琵琶湖とその周辺河川
発表内容	「琵琶湖河川レンジャー」は、琵琶湖及びその周辺において、住民のみなさんの川に関する思いや知恵などを聞き取ったり、みなさんが川に関心を持てるような取り組みをするなど、「住民と住民」、「住民と行政」をつなぐ連携・協働のコーディネーターです。現在、8人の琵琶湖河川レンジャーが、さまざまな活動を展開しています。今回は、発表者である伊東レンジャーの瀬田川（大石地区）での活動内容（住民へのヒアリング活動の様子、行政と住民との協働によって「大石かわべ物語」というイベントが生まれた経緯など）を具体的にご紹介することで、レンジャー活動の意義と魅力を、より深くみなさまに知っていただきたいと考えております。

パネ



淡海の川づくりフォーラムに関するお問い合わせ

淡海の川づくりフォーラム実行委員会事務局  
(滋賀県土木交通部流域治水政策室内) 担当：辻・一伊達  
電話：077-528-4291 FAX：077-528-4904  
電子メール：[forum@shiga-rivers.com](mailto:forum@shiga-rivers.com)